



# Kofax Insight

## インストール ガイド

バージョン: 6.4.0

日付: 2022-06-17

**KOFAX**

© 2013–2021 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

# 目次

序文.....	5
製品 ドキュメント.....	5
オフライン ドキュメント.....	6
第 1 章: はじめに.....	8
Insight Web アプリケーション.....	11
Insight データ サービス.....	12
Insight スケジューラ.....	13
第 2 章: システム要件.....	14
サーバー ソフトウェア.....	14
必要な Microsoft パッケージ.....	14
IIS Web サーバー.....	14
メタデータ リポジトリ.....	16
Insight ライセンス.....	16
データベース.....	16
Administration データベース.....	17
プロジェクト データベース.....	17
マルチテナント データベース.....	17
管理データベース、メタデータ ベース、データ データベースの組み合わせ.....	18
データベースのアクセス権.....	18
ポートの要件.....	20
マルチテナントの概要.....	20
第 3 章: インストール.....	22
Kofax Insight のインストール.....	22
Insight Installation Manager の実行.....	23
一般設定.....	24
Insight Web アプリケーション IIS の設定.....	26
Insight データ サービスの設定.....	27
スケジューラ サービスの設定.....	28
製品ライセンスのアクティビ化.....	29
インストール後の Insight の構成の変更.....	30
インストール後の暗号化キーの変更.....	30
サイレント インストールの実行.....	30
サイレント インストールのサンプル構成ファイル.....	32
Insight 3 層アーキテクチャのセットアップ.....	35

Web サーバー層.....	36
アプリケーション サーバー層.....	37
Insight のアップグレード.....	38
Insight バージョンと管理データベースのアップグレード.....	38
既存のプロジェクトのアップグレード.....	39
以前のバージョンと共に存した Insight 6.4.0 のインストール.....	39
Docker への Kofax Insight のインストール.....	40
高可用性モードでの Insight のセットアップ.....	42
2 層アーキテクチャの高可用性モードでの Insight のインストール.....	44
製品ライセンスのアクティビ化.....	49
3 層アーキテクチャの高可用性モードでの Insight のインストールと構成.....	50
Azure Kubernetes での高可用性モードでの Insight のセットアップ.....	52
Swarm オンプレミス環境を備えた Docker での高可用性モードでの Insight のセットアップ.....	54
付録 A: ロックアウトからの回復.....	56
Insight ユーザーとしてのアプリケーションへのログイン.....	56
付録 B: 接続文字列の修復と新しい暗号化キーの適用.....	57
付録 C: ファイル解析のための <b>Excel 2016</b> の構成.....	58
付録 D: ロード バランサーの設定と構成.....	60
Web ファームの設定.....	60
Insight 固有の Cookie.....	60
付録 E: <b>Windows Active Directory</b> 認証のサポート.....	62
IIS 環境の構成.....	62
Windows Active Directory 認証のトラブルシューティング.....	63
付録 F: <b>Insight</b> ログ ファイル.....	64

# 序文

このガイドには、Kofax Insight のインストールとアップグレード、および製品ライセンスのアクティベーションに関する手順が含まれています。

## 製品ドキュメント

Kofax Insight のドキュメントセットは、次の URL からオンラインで入手できます。<sup>1</sup>

<https://docshield.kofax.com/Portal/Products/Insight/6.4.0-yznsd78sen/Insight.htm>

完全なドキュメントセットには次の項目が含まれます。

### ***Kofax Insight*** リリース ノート

このガイドに含まれない最新の製品情報が記載されています。

### ***Kofax Insight*** 技術仕様

サポートされているオペレーティング システムおよびその他のシステム要件に関する情報が含まれています。

### ***Kofax Insight Azure*** 管理者ガイド

Kofax Insight Azure 環境における構成と保守を担当する管理者向けの情報が記載されています。

---

<sup>1</sup> 完全なドキュメントセットにオンラインでアクセスするには、インターネットに接続する必要があります。インターネット接続に接続されていない場合のアクセスについては、「オフライン ドキュメント」を参照してください。

### **Kofax Insight のヘルプ システム**

状況に応じたオンライン ヘルプは、次の Kofax Insight アプリケーションから直接利用できます。

#### ***Kofax Insight Admin Console* のヘルプ**

Admin Console アプリケーションの機能を説明しています。

#### ***Kofax Insight Data Loader* のヘルプ**

Data Loader アプリケーションの機能を説明しています。

#### ***Kofax Insight Multi-Tenant Console* のヘルプ**

Multi-Tenant Console アプリケーションの機能について説明しています。

#### ***Kofax Insight Studio* のヘルプ**

Dashboard Designer および Viewer を含む、Studio アプリケーションの機能を説明しています。

#### ***Kofax Insight Themes and Formats* のヘルプ**

Themes and Formats アプリケーションの機能を説明しています。

#### ***Kofax Insight Viewer* のヘルプ**

Viewer アプリケーションの機能を説明しています。

#### チュートリアル

Insight インストール パッケージのサンプル プロジェクトで使用するためのチュートリアルには、クイック スタート ガイドが含まれています。

## オフライン ドキュメント

ドキュメントをオフライン モード (アクティブなインターネット接続なし) で使用できるようにするには、[Kofax フルフィルメント サイト](#) からダウンロードした製品パッケージから documentation.zip ファイルを取得します。製品パッケージは、オフライン使用のために以下のドキュメントを含めます:

- KofaxInsightDocumentation\_6.4.0\_EN.zip  
英語のすべての製品ドキュメント
- KofaxInsightDocumentation\_6.4.0\_JA.zip  
日本語のすべての製品ドキュメント

各言語で ZIP ファイルは以下のフォルダを含めます:

- [print] フォルダには Kofax Insight インストール ガイドおよび Kofax Insight Azure 管理者ガイドが含まれています。
  - [help] フォルダには Kofax Insight Admin Console のヘルプ、Kofax Insight Studio のヘルプ、Kofax Insight Data Loader のヘルプ、Kofax Insight Multi-Tenant Console のヘルプ、Kofax Insight のヘルプ、Kofax Insight Themes and Formats のヘルプ、API Online Help (英語版のみ)、チュートリアルとサンプル プロジェクトのヘルプが含まれています。
1. Kofax フルフィルメント サイトのダウンロード ページからダウンロードした Kofax Insight 6.4.0 製品パッケージから必要な言語の圧縮されたドキュメント パッケージを取得してください。
  2. **Documentation** フォルダを作成して、documentation.zip ファイルの内容を次の場所に抽出します。  
[ ドライブ:] \Program Files\Kofax\Insight 6.4.0\Html\Insight\Documentation

3. 任意の Insight アプリケーションを起動し、ヘルプ アイコンをクリックして、別のブラウザ ウィンドウでヘルプを開きます。

PDF ドキュメントをオフラインで使用するには、Documentation フォルダまたはコンピュータの別の場所から PDF ドキュメントを開きます。これらの指示に従って Kofax Insight のオフライン ドキュメントをインストールすると、アクティブなインターネット接続が存在する場合でも、製品ではデフォルトでドキュメントのオフライン バージョンが使用されます。

❶ 製品をアンインストールした場合、Documentation フォルダは自動では削除されません。必要に応じて手動で削除してください。

## 第 1 章

# はじめに

このドキュメントでは、Kofax Insight 6.4.0 のコンポーネントとその技術アーキテクチャについて説明します。

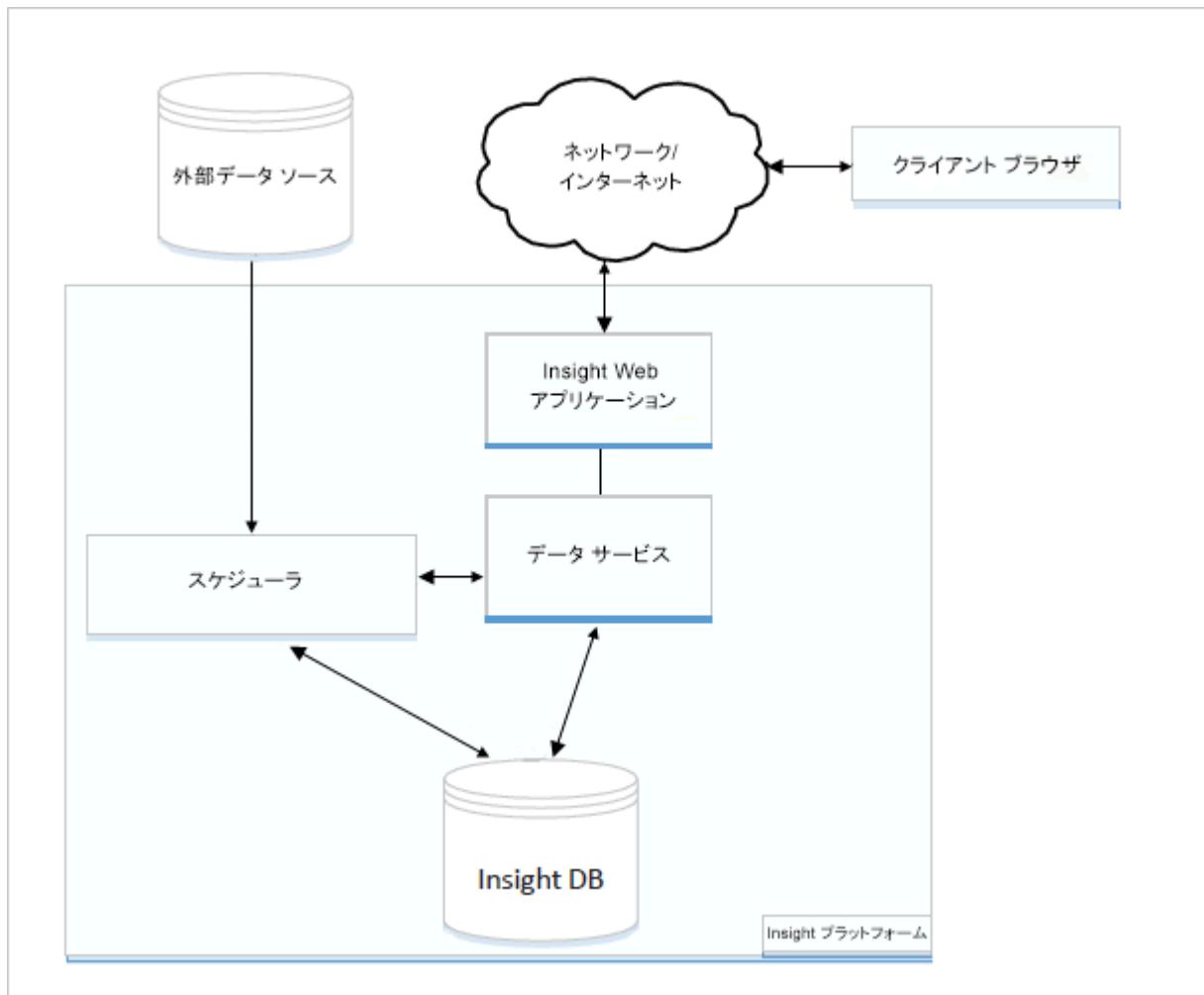
Kofax Insight は、HTML5/JavaScript をサポートするブラウザで実行される、ブラウザベースのシステムです。サーバー コンポーネントは、Microsoft .NET Framework 上に構築され、Windows (64ビット)/IIS サーバーで実行されます。

Kofax Insight は、次の主要コンポーネントで構成されています。

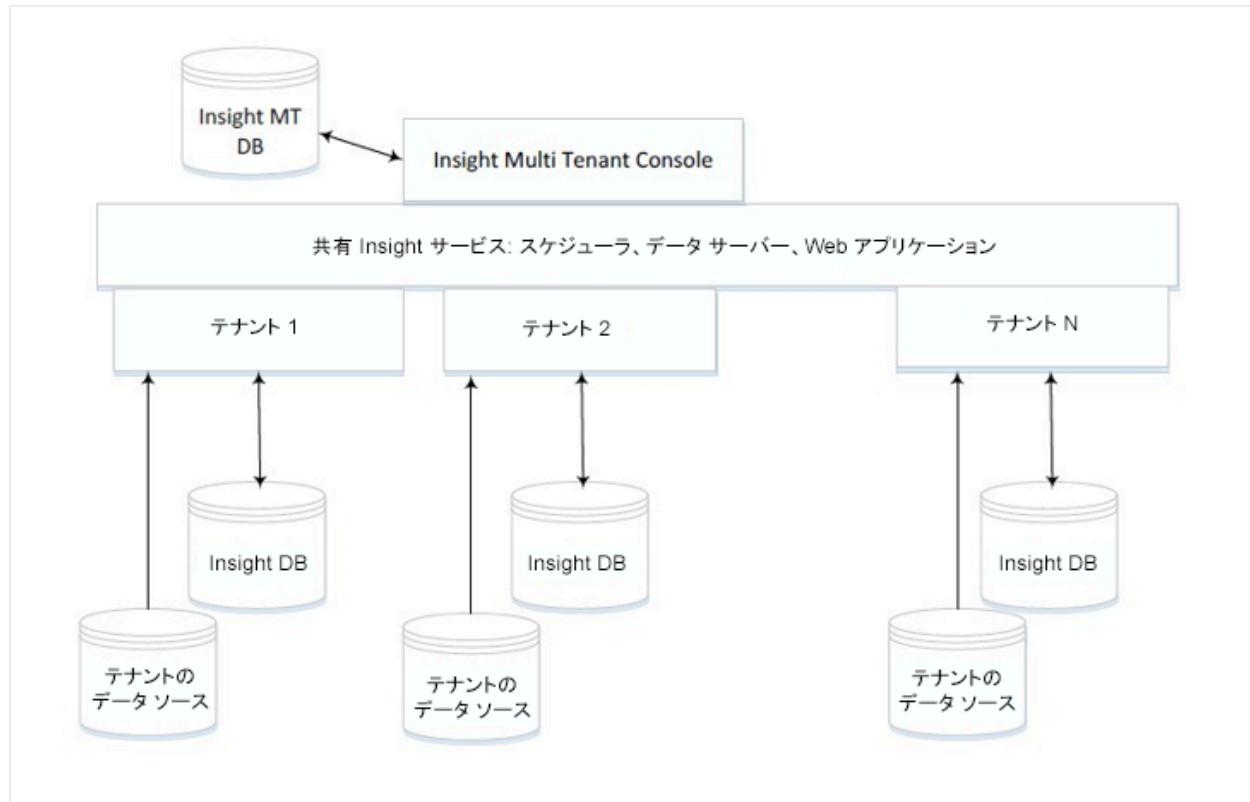
- Insight Web アプリケーション
- Insight データ サービス
- Scheduler
- Insight データベース

Kofax Insight は、シングルテナントまたはマルチテナント モードでデプロイできます。

次の図に、シングルテナント モードでデプロイされた Insight のアーキテクチャを示します。このドキュメントでは、「データベース」を示すために「DB」という語を使用します。



次の図に、マルチテナント モードでデプロイされた Insight のアーキテクチャを示します。



それぞれのテナントは、Kofax Insight Multi-Tenant Console アプリケーションでセットアップできます。テナントのセットアップ後、次の URL を使用して Insight のテナント環境にアクセスします。

`http(s)://<tenant_id>.<host:port>/Insight/[Admin|Studio|View|Themes|DataLoader]`

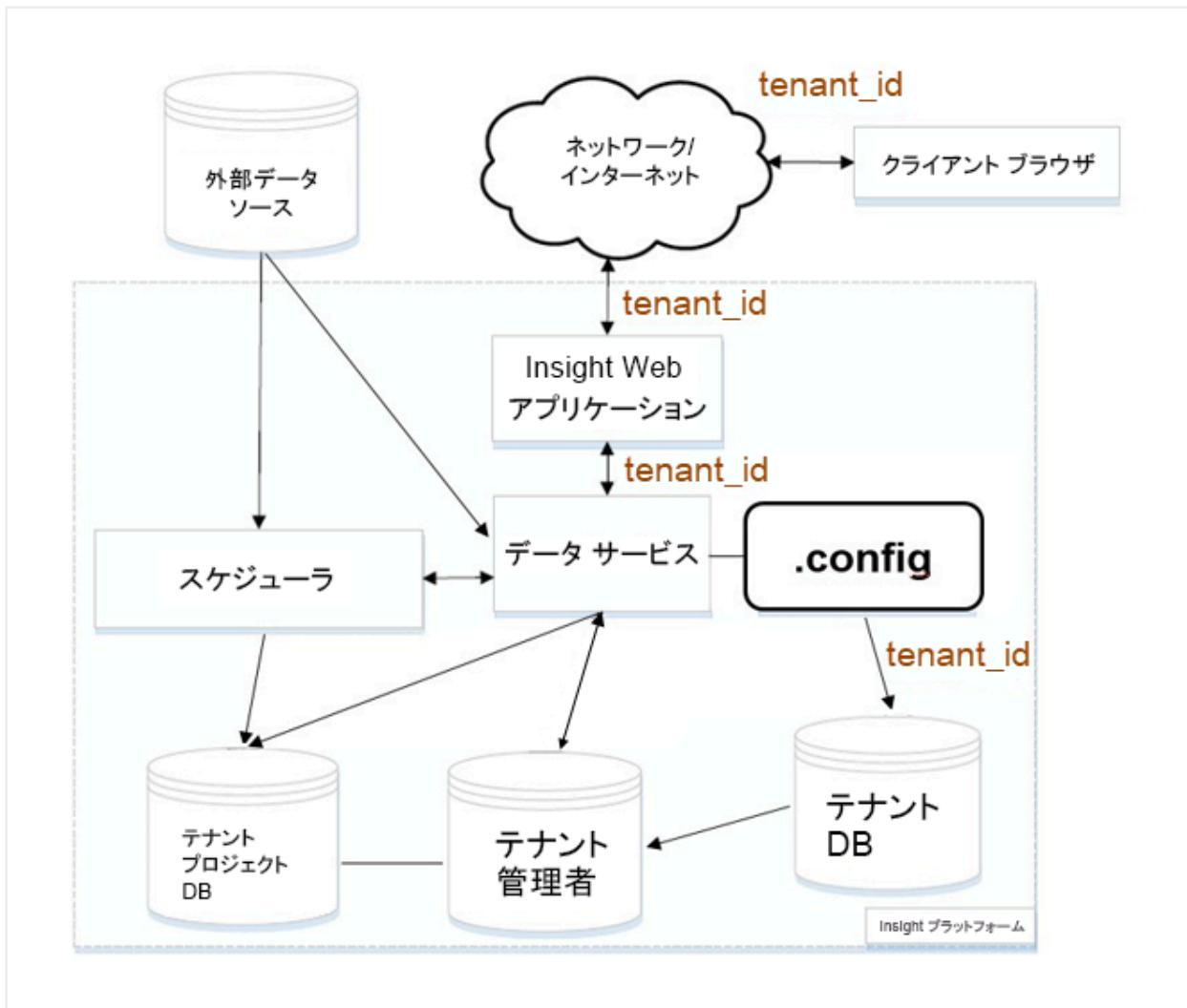
たとえば、*MyInsight* という名前のドメインと *tenant2* というテナント ID を持つテナントで Insight が設定されている場合、*tenant2* は次の URL を使用して Insight にアクセスできます。

`http://tenant2.MyInsight.com/Admin`

テナント(顧客)管理者は、ドメインと同じ IP を指すサブドメインのレコードを DNS に持つ必要があります。

Insight アプリケーションが要求を受け取ると、Insight はテナント ID を読み取り、追加パラメータとしてデータ サービスに送信します。

Insight データ サービスは、パラメータからテナント ID を読み取り、テナントの管理 DB への接続文字列を Insight MT データベースから取得します。Insight は、シングルテナント モードと同じ方法でユーザーを認証します。



## Insight Web アプリケーション

Insight Web アプリケーションは、Insight プラットフォームへのユーザー インターフェイスを提供します。Insight システムのプレゼンテーション層として機能するユーザー インターフェイスは、ユーザーが Insight を構成および管理できるようにする以下のアプリケーションで構成されます。

名前	物理名	種類	説明/機能
Admin	Admin	Web サイト	Insight ライセンス マネージャへのアクセスを、認証、ユーザー、ロール、アクセス権に関する構成設定とともに提供します。また、Insight プロジェクトの作成と管理、および分析ソリューションのインポートに使用されます。
Data Loader	DataLoad	Web サイト	さまざまなデータソースから Insight データ マートへのデータ ロードをログに記録し、管理およびスケジュールします。
Studio	Studio	Web サイト	指標やレコード、ビュー(ダッシュボード)、データソース、実行プラン、ファイル プロセッサー、レポート、監査などの Insight プロジェクト ドキュメントを管理します。
ビュー	ビュー	Web サイト	エンド ユーザーにビュー(ダッシュボード)へのアクセスを提供します。
テーマとフォーマット	テーマ	Web サイト	ダッシュボードと Insight プロジェクトで使用されるすべてのテーマとフォーマットを管理します。

## Insight データ サービス

Insight システムのアプリケーション層であるデータ サービスは、Insight に認証、データ管理、および分析サービスを提供します。データ サービスは Insight データベースに接続し、Web アプリケーションおよびスケジューラと通信します。データ サービス コンポーネントを表に示します。

名前	物理名	種類	説明/機能
WCFData	WCFDataService	.NET WCF サービス	認証、Insight ドキュメント管理、データ分析サービスを提供します。
チャート スナップショット	ChartSnapshotService	.NET WCF サービス	レポートを印刷します。

## Insight スケジューラ

Insight スケジューラは、外部データ ソースから Insight データ マート (Insight プロジェクト データ データベース) にデータをロードするスケジューラ - Data Loader.exe を起動する Windows サービスです。

名前	物理名	種類	説明/機能
Scheduler	InsightSchedulerServiceXYZ	Windows サービス	データをロードする exe を実行します。名前の中にある XYZ はバージョン番号です。たとえば、631 はバージョン 6.4.x です。
スケジューラ - Data Loader.exe	Altosoft.Insight.DashboardServer.exe	exe	単一の実行プランのデータのロード操作を実行します。

## 第2章

# システム要件

Kofax Insight のシステム要件(ハードウェアおよびソフトウェア)は、『Kofax Insight の技術仕様』ドキュメントに記載されています。このドキュメントは、Kofax Web サイトの Kofax Insight 6.4.0 [サポートページ](#)から入手できます。製品をインストールする前に、このドキュメントを確認することをお勧めします。この章は、『技術仕様』ドキュメントを補足し、データベース、ポート、および関連する要件の詳細について説明することを目的としています。

## サーバー ソフトウェア

次の要件およびサポートされているバージョンについては、『Kofax Insight 6.4.0 技術仕様』を参照してください。

- オペレーティング システム
- .NET Framework
- Cookie が有効な HTML 5 ブラウザ
- IIS Web サーバー
- データベース マネージメント システム

## 必要な Microsoft パッケージ

Insight をインストールするサーバーには、**Microsoft Visual C++ 2015 SP1 再頒布可能 (x64)** パッケージ以降が事前にインストールされている必要があります。Insight を3層環境にインストールする場合は、WCF データ サービスを実行するサーバーに Microsoft パッケージをインストールします。

また、Insight をインストールする前に、**Microsoft .NET Framework 4.7.2** 以降がサーバーにプリインストールされている必要があります。

Insight がインストールされているサーバーでは、**Microsoft Access Database Engine 2016** 再頒布可能パッケージをインストールして、Excel ファイル (.xls または .xlsx) のデータ ソースとしての使用、ファイルへのデータ ソースとしてのレコード作成、マップ コンポーネントのカスタム図形の読み込みなどを行います。

Microsoft Access データベース エンジンは Microsoft の Web サイトから入手することができ、Insight のセットアップ後にインストールします。

## IIS Web サーバー

Insight をインストールする前に、Internet Information Server (IIS) が有効で構成済みであることを確認してください。IIS はすべての Windows サーバーに付属していますが、デフォルトではインストールされないため、インストールが完了していることを確認する必要があります。

① IIS で Insight を手動で構成する場合、アプリケーション プール (デフォルトまたはカスタム) は .NET v4.x を使用する必要があります。[マネージ パイプライン モード] の場合は、[統合] を選択します。

カスタム アプリケーション プールを使用する場合は、ChartSnapshotService を含む専用のアプリケーション プールが必要です。アプリケーション プールに Active Directory アカウントを使用する場合は、NetworkService と同じレベルの権限が必要です。アプリケーション プールのアイドル タイムアウトをゼロに設定して、常にアクティブな状態にすることをお勧めします。

## IIS の構成

1. コントロール パネルを使用して、[管理ツール] > [サーバー マネージャー] に移動します。
2. [サーバー マネージャー] で、[役割と機能の追加] を選択します。
3. [役割と機能の追加] ウィザードの [サーバーの役割] で、[Web サーバー (IIS)] を選択し、リストを展開して次のオプションを選択します。
  - 一般的な HTTP 機能:
    - 静的コンテンツ
    - デフォルトのドキュメント
    - HTTP エラー
    - HTTP リダイレクション
  - 状態と診断
    - HTTP ロギング
    - セキュリティ
    - フィルタリング要求
    - 基本認証
    - クライアント証明書マッピング認証
    - IIS クライアント証明書マッピング認証
    - URL 承認
    - Windows 認証
  - アプリケーション開発
    - .NET 拡張性 (最新バージョンを使用)
    - ASP.NET (最新バージョンを使用)
    - ISAPI 拡張
    - ISAPI フィルター
  - 管理ツール
    - IIS 管理コンソール
    - IIS 管理スクリプトおよびツール
    - 管理サービス
4. [次へ] をクリックして [機能] を構成し、次のオプションを選択します。
  - .NET Framework 4.x (最新バージョンを選択)
    - WCF サービス
      - HTTP アクティベーション

5. [インストール] をクリックして、選択した役割と機能をインストールします。

❶ Windows 2016 上の IIS 10 の場合は、サーバーの [役割サービス] を追加する際に IIS Web サーバーに関連するすべての機能を選択します。不要な機能については、後ほど IIS をインストールした場合にすべて削除できます。

## Windows 7 および Windows 8 用の IIS の構成

1. コントロール パネルを使用して、[プログラム]>[プログラムと機能] に移動します。
2. [Windows の機能の有効化または無効化] をクリックし、[インターネット インフォメーション サービス] を選択します。
3. 必要なオプションを選択して、[OK] をクリックします。

## メタデータ リポジトリ

Kofax Insight では、メタデータと計算データが Oracle、Microsoft SQL Server、または MySQL データベースに保存されます。データベースは、専用サーバーまたは Insight と同じ共有サーバーに配置されます。

別のサーバーを使用する場合は、Insight をインストールする前にインストールしてください。

## Insight ライセンス

ライセンスなしでも新たな Insight 6.4.0 インストールを実行できますが、ライセンスをアクティベートするまで製品は使用できません。バージョン 5.x または 6.x から Insight 6.4.0 にアップグレードした場合は、現在のライセンスを再アクティベートせずに続行できます。Insight ライセンスの取得についてサポートが必要な場合は、Insight セールス チームにお問い合わせください。

マルチテナントを使用するには、マルチテナント ライセンスを取得する必要があります (これは個別に入手できます)。

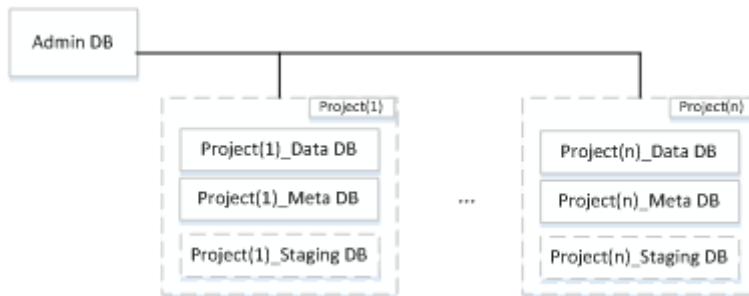
## データベース

Insight アプリケーション サーバーおよびスケジューラは、分析するデータにアクセス可能である必要があります。ネットワーク接続を介してデータベースにアクセスする場合は、必要なセキュリティ/ファイアウォール設定と、ターゲット データベースに必要なドライバの可用性を確認する必要があります。

❶ Insight のアンインストール手順はデータベースに影響を及ぼしません。

Insight のデータベース構造は、次のもので構成されています。

- 管理データベース
- プロジェクト データベース
- マルチテナント データベース (該当する場合)



### Insight のデータベース構造

- ステージング データベースはオプションです。

## Administration データベース

Administration データベースには、ユーザー、ロール、フィルタリング、アラート メッセージ、ログ、テーマ、フォーマットなど、Insight 環境とプロジェクトに関連する管理データが保存されます。Administration データベースにはプロジェクト メタ データベースへの接続が含まれており、他のデータベースに関する情報は各プロジェクトのメタ データベースに保存されます。

Insight サーバーごとに 1 つの Administration データベースが存在します。Administration データベースには、MS SQL Server、Oracle、または MySQL が使用できます。

## プロジェクト データベース

各 Insight プロジェクトは次のデータベースで構成されています。

- メタ データベース: プロジェクトを構成するドキュメントに関する構成情報を保存します。プロジェクト ドキュメントには、データ ソース、レコード、指標、変換テーブル、ビュー(ダッシュボード)、レポート、実行プラン、ファイル プロセッサー、プロセス、パラメータ、定数、アクセラレータが含まれます。
- プロジェクト ドキュメントのローカリゼーション文字列を保存するメタ データベースには、データは保存されません。
- データ データベース: 処理されたレコード、指標、およびその他のプロジェクト ドキュメントに関するデータを保存します。ドキュメントごとに新しいテーブルが作成され、ドキュメントが追加、変更、または削除されると、データベース スキーマが更新されます。
- ステージング データベース (オプション): ファイル プロセッサーによって解析された外部ファイルのデータを保存します。例には、XML、CSV、または Excel ファイルが含まれます。

## マルチテナント データベース

マルチテナント ライセンスをお持ちの場合、詳細についてはこのガイドの [マルチテナントの概要](#)をご覧ください。

## 管理データベース、メタデータベース、データデータベースの組み合わせ

リソースが限られている場合、さまざまなスキームを使用するという条件で、すべてのテーブルを物理的に 1 つの MS SQL データベースに配置できます。このオプションを使用するには、メタ、データ、管理など、デフォルトのデータベーススキーマが異なる複数のユーザーを作成できます。後で接続を構成する場合に、単一のデータベースおよび別のユーザーを使用できます。

### データベースのアクセス権

Insight では、管理、メタ、データ、またはステージングといったデータベースのインデックスとテーブルを作成、削除、変更するための権限が必要です。

#### MS SQL Server

データベース管理者は 3 つのデータベースを作成できます。SQL ユーザーには、次のグループの権限 (またはメンバーシップ) が必要です。

- db\_datareader
- db\_datawriter
- db\_ddladmin

また、データベース管理者は、データベースを作成する権限 (または db\_creator ロールのメンバーシップ) を持つ SQL ユーザーを作成できます。この場合、Insight によりデータベースが自動的に作成されるため、追加の権限を割り当てる必要はありません。

#### データベース コネクタ

Insight が MS SQL Server に接続するための追加のドライバやコネクタは必要ありません。

#### Oracle

##### データベース コネクタ

Insight には Oracle Data Provider for .NET (ODP.NET) が必要です。これは、Oracle Web サイトの Windows ダウンロード ページにある Oracle Data Access Components (ODAC) から入手できます。Oracle データベースのインストールを実行する場合は、必ず ODP.NET オプションを選択してください。

**● 「Xcopy」を使用する場合は、ライブラリを .NET およびレジストリに登録することを含め、すべてのインストール手順を適切に完了していることを確認してください。**

##### Oracle データベースへのアクセス権

ユーザーには次のアクセス権が必要です。

- セッションの作成
- テーブルの作成
- プロシージャの作成
- シーケンスの作成

ユーザーには、適切なテーブルスペース (一時テーブルスペースも含めて) の割り当てが必要です。インデックスは同じテーブルスペースに保存されます。

例:

CREATE USER [ユーザー名]

識別方法 [パスワード]

DEFAULT TABLESPACE [テーブルスペース名]

QUOTA UNLIMITED ON [テーブルスペース名]

GRANT

セッションの作成

テーブルの作成

プロシージャの作成

シーケンスの作成

TO [ユーザー名]

#### Oracle クライアント 18/19 への ODP.NET の登録

ODAC 18c から、マシン全体の構成はサポートされなくなりました。しかし管理者は、ODP.NET を GAC に配置し、構成セクション ハンドラおよび DbProviderFactory 情報を machine.config に手動で追加して、個々のアプリケーションの ODP.NET 設定を上書きすることができます。詳細については、Oracle サポート Web サイトを参照してください。

ODP.NET を登録するには、以下の操作を行います。

1. [ドライブ] : \<app>\client\Administrator\product\19.0.0\[クライアント\_1]\odp.net\bin\4 にある OraProvCfg ファイルを使用します
2. 次のコマンドを実行します。

```
oraprovcfg /action:gac
/providerpath:[ドライブ]:\[アプリケーション]\client\Administrator\product
\19.0.0\[クライアント_1]\odp.net\bin\4\Oracle.DataAccess.dll
oraprovcfg /action:config /force /product:odp /frameworkversion:v4.0.30319
/providerpath:[ドライブ]:\[アプリケーション]\client\Administrator\product
\19.0.0\[クライアント_1]\odp.net\bin\4\Oracle.DataAccess.dll
```

## MySQL

MySQL Connector/NET は、MySQL を使用する場合にのみ必要です。MySQL Connector/NET の Web サイトで、MySQL のバージョンと互換性のあるバージョンを選択します。

## ポートの要件

Insight は、表にリストされているポートを使用します。

コンポーネント名	デフォルトのポート	コメント
Insight Web およびデータ アプリケーションとサービス	https の場合は 80 または 443	<p>ポートは、インストール中に再設定できます。Insight のインストール後にポートを再設定するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。</li> <li>2. [インストール フォルダ]\Insight 6.4.0\InstallationManager\Altosoft.InsightInstallManager.exe /i を実行します。</li> </ol>
Insight Scheduler (Windows サービス)	13640	<p>ポートを変更するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. \Program Files\Kofax\Insight 6.4.0\SchedulerServer\ にある Insight インストール フォルダに移動し、AltoSoft.Insight.Scheduler.exe.config ファイルで <i>SchedulerPort</i> プロパティを変更します。</li> </ol>
ブリッジ サービス (Windows サービス)	15640	<p>ポートを変更するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. \Program Files\Kofax\Insight 6.4.0\InsightBridgeService\ にある Insight インストール フォルダに移動し、AltoSoft.Insight.BridgeService.exe.config ファイルで <i>BridgeServicePort</i> プロパティを変更します。</li> <li>2. \Program Files\Kofax\Insight 6.4.0\SchedulerServer\ にある Insight インストール フォルダに移動し、AltoSoft.Insight.Scheduler.exe.config ファイルで <i>BridgeServiceURL</i> プロパティのポートを変更します。</li> <li>3. \Program Files\Kofax\Insight 6.4.0\Server\ にある Insight インストール フォルダに移動し、AltoSoft.Insight.DashboardServer.exe.config ファイルで <i>BridgeServiceURL</i> プロパティのポートを変更します。</li> </ol>

## マルチテナントの概要

Insight では、マルチテナントを使用して、各テナントのデータと構成が他のテナントから保護されている同じ Insight サーバーのセットに複数の顧客 (テナント) をデプロイできます。同時に、各テナントには独自のプロジェクト、ユーザー、認証、ロール、テーマ、およびその他のパラメータを構成できます。

各テナントは独自の Insight データベース (管理 DB、Meta DB、Data DB) を持ち、すべてのテナントに関する情報は Insight MT (マルチテナント) DB に保存されます。

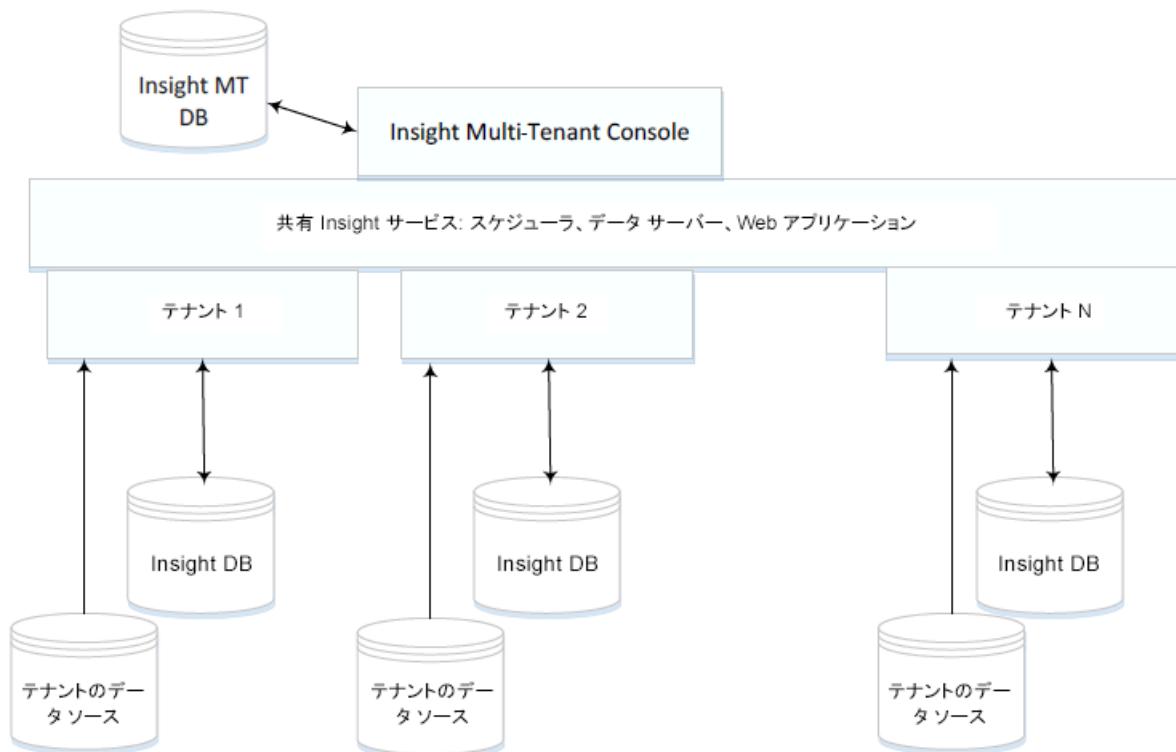
マルチテナント管理者には次の権限があります。

- Insight システムとすべてのテナントへの完全なアクセス
- Multi-Tenant Console へのアクセス
- テナントを追加/削除する権限
- テナントの構成 (アップグレード、パスワードの設定など) でのその他のアクションの実行。

テナント管理者には次の権限があります。

- Multi-Tenant Console を除くすべての Insight アプリケーションへのアクセス。
- 特定の単一テナント内のプロジェクト、ユーザー、およびデータに対する完全な制御。

次の概要図は、Insight のマルチテナントの基本原則を示しています。



## 第3章

# インストール

この章には、Kofax Insight のインストール手順が含まれています。インストールは 2 つの部分からなるプロセスです。

1. [Insight インストーラ](#)を実行して、必要なファイルをサーバーにコピーします。
2. [Insight Installation Manager](#) を実行して、IIS で Insight データベースと Insight Web サイトを作成および構成します。

Insight には、手動入力なしで Insight インストールを実行するためのサイレント インストーラが含まれています。 [サイレント インストールの実行](#) をご覧ください。

また、[Docker](#) に [Insight](#) をインストールすることもできます。

① Insight を再インストールまたはアップグレードすると、既存の構成ファイルが上書きされる可能性があります。したがって、これらの手順を実行する前には、カスタム設定を含む構成ファイルをバックアップするようにしてください。Insight のアップグレードが完了した後に、必要なカスタマイズを新しい構成ファイルに手動で再適用する必要があります。

## Kofax Insight のインストール

1. 製品をインストールするコンピュータに Kofax Insight 製品ファイルをダウンロードします。
2. KofaxInsight-6.4.0\_64-bit.ZIP を抽出します。
3. **KofaxInsightSetup\_6.4.0.0.0.[NNNN]\_x64.msi** などの適切な .msi ファイルを実行します ([NNNN] は、『Kofax Insight 6.4.0 リリース ノート』の「バージョン情報」セクションに記載されている Insight のビルド番号です)。  
インストール ウィザードが表示されます。
4. [次へ] をクリックします。
5. 管理者としてインストーラを実行していない場合は、通知ウィンドウが表示されます。この場合は、[再起動] をクリックして管理者として実行します。
6. 使用許諾契約を確認し、条件に同意する場合はチェック ボックスを選択して、[次へ] をクリックします。
7. [Kofax Insight の設定] 画面で [すべての環境] を選択し、[次へ] をクリックします。  
カスタム インストールを実行する場合は、[Insight 3 層アーキテクチャのセットアップ](#)を参照してください。
8. [カスタム設定] ページで、デフォルトのインストール フォルダを使用するか、フォルダを変更します。
9. フォルダを指定するか、ログ ファイルを保存する場所を参照して選択します。初期状態では、すべてのユーザーにログ フォルダへのアクセス許可が付与されています。

- [データ ルート フォルダ] については、デフォルトのフォルダ [ドライブ:] \Temp\InsightData のままにするか、または別の場所を参照します。このフォルダは Insight のインストール後に、Program Files\Kofax\Insight 6.X.X\WcfDataService および Program Files \Kofax\Insight 6.4.0\Server\Altosoft.Insight.DashboardServer.exe.config 内にある Web.config ファイルで後から変更することができます。新しいフォルダを Insight.DataService.FileRootDirectory という設定に変更し、必要な権限をユーザーに割り当てる必要があります。Insight プール ユーザーおよびスケジューラ ログイン ユーザーには、このフォルダに対する読み取り/書き込み権限が必要です。Insight を介してアップロードするすべてのファイルにこの [データ ルート フォルダ] が使用されます。初期状態では、全員にこのフォルダへのアクセス権が割り当てられています。このフォルダには、次のサブカテゴリを含めることができます。
  - Solution: ソリューションをインポートしてプロジェクトを作成するためのすべての ZIP ファイルが保存されます。
  - ImportExport: 抽出されたすべてのプロジェクトおよびソリューション ファイルが格納されます。
  - [プロジェクト名]: プロジェクトのデータが保存されるデフォルトのサブフォルダ。必要に応じて、それぞれのプロジェクトに個別のサブフォルダを作成できます。
  - Encryption key: セキュリティのために使用する暗号化キーを保存できます。
- [次へ] をクリックします。

① 高可用性を確保するために Insight の複数のインスタンスをインストールする場合は、データ ルート フォルダへのアクセスを共有して、すべての Insight インスタンスからアクセスできるようにします。

- [Kofax Insight をインストールする準備ができました] ページで、[インストール] をクリックしてインストールを開始します。
- [Kofax Insight セットアップ ウィザードの完了] ページで、[終了] をクリックします。Insight Installation Manager が表示されます。手順については、「Insight Installation Manager の実行」セクションを参照してください

② インストールが正常に完了すると、すべてのインストール手順が、「カスタム設定」ページで前に指定したログ フォルダ内のファイルに記録されます。インストールが失敗した場合は、[Event Viewer] でそれぞれのログを確認できます。

Insight を初めて使用する場合は、製品の使用前に『Kofax Insight のチュートリアル』を確認することをお勧めします。

## Insight Installation Manager の実行

Insight Installation Manager を使用してシングルまたはマルチテナント モードを選択し、Insight データベース、接続のタイプ、IIS 上の Insight Web サイトを指定し、リモート データ サービスおよびスケジューラの認証を構成します。

通常は、Insight インストーラを実行してファイルをサーバーにコピーした後に Insight Installation Manager が自動的に起動します。また、Insight Installation Manager プログラム フォルダから Insight を起動することもできます。構成を正常に完了した後で初めて Installation Manager を実行する際は、

管理ユーザーの認証情報を入力する必要があります。あるいは、Windows 認証を使用することもできます。

Insight Installation Manager を実行して構成の設定を修復するか、IIS の設定を変更する必要がある場合はコマンド プロンプトを起動して次のコマンドを実行します。

```
[インストール フォルダ]\Insight_6.X.X\InstallationManager  
\Altosoft.Insight.InstallManager.exe /i
```

## 一般設定

Insight Installation Manager の起動時に、情報を保存するデータベースを Admin Console に設定するよう求められます。

次の情報を指定します。

1. Insight モードで [シングル] または [マルチテナント] を選択します。

① Insight をマルチテナント モードでデプロイすると選択した場合は、ライセンスを追加し、Multi-Tenant Console アプリケーションを使用してテナントを構成する必要があります。マルチテナント管理者としてログインするには、*MTAdmin* というユーザー名を使用してパスワードを入力します。

2. [高可用性] チェック ボックスをオンにして、高可用性モードを有効にします。

3. 接続種類: 使用するサーバー (Microsoft SQL、Oracle、または MySQL)。

4. **SQL Server** 名: データベース サーバーのサーバー名または TNS 名を入力します。

MySQL または Oracle を使用する場合は、Insight をインストールする前に必要なデータベース ドライバがインストールされていることを確認してください。

Microsoft SQL Server の場合は、[Windows 認証] を使用できます。

5. [ログイン] および [/パスワード]: Administration データベースのログイン認証情報を入力します。

Oracle データベースの場合、権限を持つユーザーをインストール前に作成する必要があります。Microsoft SQL および MySQL データベースについては、新しいデータベースが存在しない場合、Insight によって自動的に作成されます (ユーザーがデータベースを作成するために必要な権限を持つ場合)。別のオプションとして、インストール前に Administration データベースを作成することができます。

6. [Administration データベース名] を選択して名前を割り当てます。

7. [追加の接続文字列] を使用して、接続文字列に追加のパラメータを定義します。

8. セキュリティのために Insight の接続を暗号化するには、[カスタム キーを使用] チェック ボックスをオンにします。次の2つのオプションを使用できます。

- 新しいキーを生成: 選択した場合、キーが生成され、Insight ライセンスのローカル フォルダに保存されます。キーをデータ フォルダにも保存する場合は、それぞれのチェック ボックスをオンにします。

- 既存のキーを使用: 既存の暗号化キーへのパスを指定する場合にこのオプションを選択し、[ファイルを開く] をクリックします。この場合、キーは Insight のライセンスが付いた状態でローカル フォルダにコピーされます。

9. [データ フォルダに保存] チェック ボックスをオンにして、キーをデータ フォルダに保存します。これは、高可用性を確保するために必要です。キーを変更する場合、コンピュータごとにキーを変更する必要はありません。

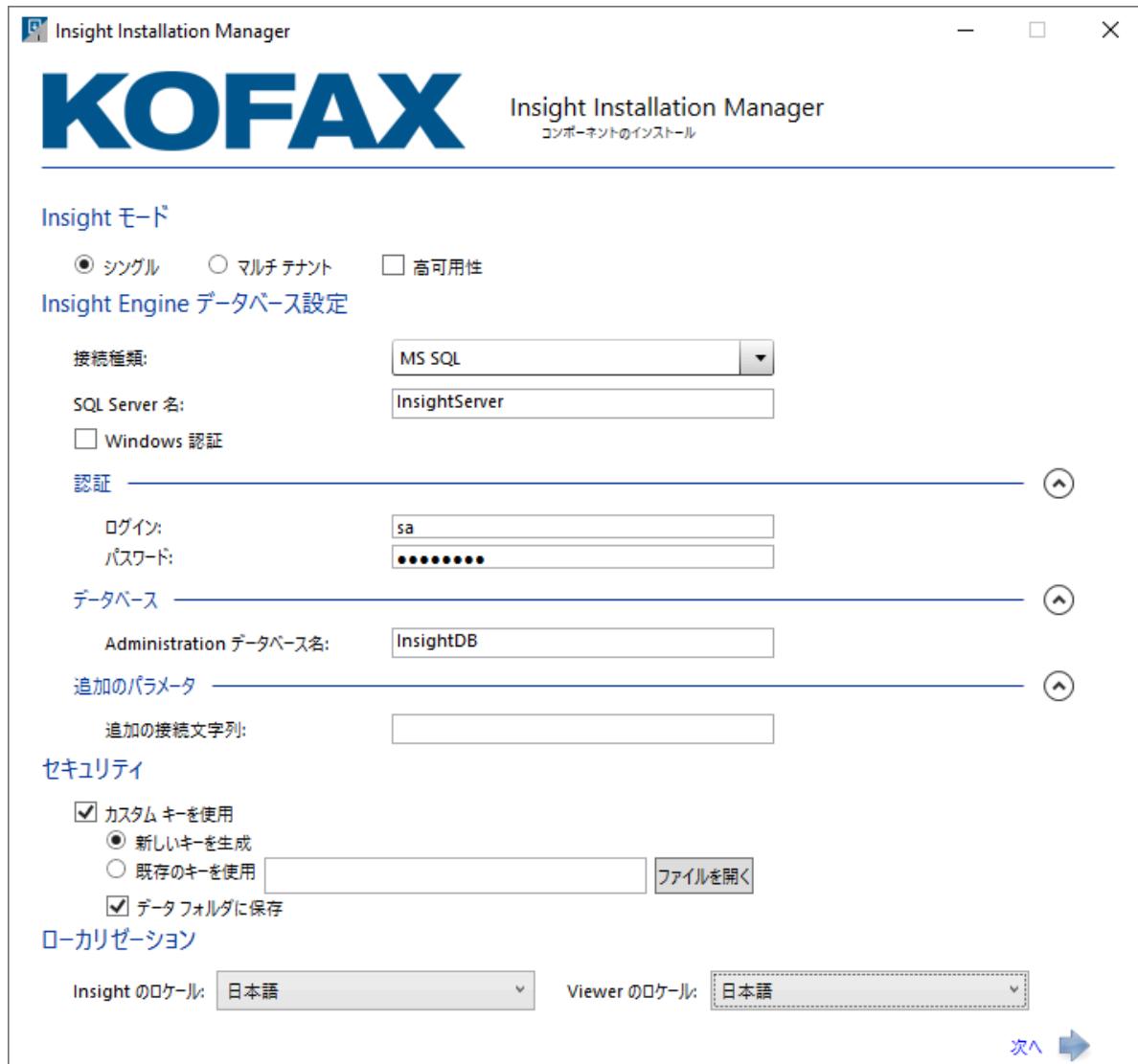
次の接続は暗号化されています。

- Administration データベースへの接続
- Admin Console からの接続ドキュメント
- プロジェクト メタ データベースおよびデータ データベースへの接続
- データベースへのデータ ソース ドキュメントで使用される接続

**重要:** データ フォルダに生成されたファイルが失われた場合、これらのすべての接続を利用できなくなります。

生成されたキーは、後で [Insight Installation Manager](#) を実行するか、[サイレント インストール](#) を実行して変更することができます。

10. [ローカリゼーション] グループで、ドロップダウン リストを使用して [Insight のロケール] および [Viewer のロケール] を設定します。デフォルトでは、ロケールに英語が選択されています。



11. [次へ] をクリックします。  
[Insight Web アプリケーション IIS の設定] ページが表示されます。

## Insight Web アプリケーション IIS の設定

次の Web アプリケーション設定を定義します。

1. [ホスト] パラメータと [TCP ポート] パラメータ、およびすべての URL に使用されるプロトコルを設定します。
  - [ホスト]: デフォルトのホスト アドレスは **127.0.0.1** です。Insight がインストールされているサーバーのドメイン名または IP アドレスを入力して、Web サイトにアクセスします。

- **TCP ポート:** SSL (HTTPS) を使用する場合のデフォルトの TCP/IP ポートは 443 で、デフォルトの非セキュア (HTTP) ポートは 80 です。
  - **TLS/SSL を使用:** 暗号化された接続を有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。
2. [アプリケーション プール] グループで、次のように [アプリケーション プール名] を定義します。作成した IIS プール名を選択するか、新しいプール名を入力します。
  3. オプションです。[ID の設定] をクリックして、アプリケーション プール ID を定義します。
    - a. [サービス アカウント] グループで、[アプリケーション プール ID] をクリックします。表示されたダイアログ ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
      - ネットワーク サービス
      - このアカウント: アカウント名またはドメイン\ユーザー名を入力します。Windows 認証を使用してデータベースにアクセスする場合は、このデータベースにアクセス可能なアカウントを指定します。
    - b. パスワードを設定して確認のために再度入力します。
    - c. [OK] をクリックして変更を保存し、画面を閉じます。
  4. **Web サイト名:** IIS Web サイトをすでに作成している場合は、リストからサイトを選択し、入力した TCP ポートがこのサイトに割り当てられていることを確認します。作成していない場合は、入力した TCP ポートが使用可能であることを確認し、[新規] をクリックして新しい Web サイトを作成します。
    - a. [Web サイトの追加] ダイアログ ボックスで、[サイト名] を入力します。
    - b. [バインディング] グループで、[タイプ]、[ポート]、および [ホスト名] を設定します。
 

**!** SSL 接続を使用することを強くお勧めします。Installation Manager を続行する前に、IIS マネージャを使用して SSL 証明書を作成またはインポートします。IIS で SSL を設定する方法については、「Microsoft サポート Web サイト」を参照してください。

[Https] バインディング タイプを使用する場合は、リストから [SSL 証明書] を選択します。変更を保存すると、[TLS/SSL を使用] チェック ボックスが自動的に選択されます。インストールの完了後に SSL 設定を変更するには、[インストール後の Insight の構成の変更](#)の手順を参照してください。
    - c. [OK] をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

## Insight データ サービスの設定

1. [データ サービスの Windows 認証を有効にする] チェック ボックスをオンにします。Insight コンポーネントに [Windows 認証](#) を使用する場合は、このオプションを有効にする必要があります。
2. [Insight データ サービスの設定] グループで、[パスワード ポリシーの適用] チェック ボックスをオンにして、管理者パスワードの次の要件を適用します。
  - 少なくとも 8 文字を含む
  - 少なくとも 1 つの英字を含む (a-z, A-Z)
  - 少なくとも 1 つの数字を含む (0-9)
  - 少なくとも 1 つの特殊文字を含む (例: @ & % \*)
3. 管理者またはマルチテナント管理者のパスワードを指定して、再度入力します。

- リモート サーバー上のデータ サービスに接続する場合は、[リモートの Insight データ サービスの使用] チェック ボックスをオンにし、[ホスト]、[TCP ポート] を設定して、[TLS/SSL を使用] オプションを有効にします。
- オプションです。リモート サービス設定をスケジューラ サービスにのみ適用するには、[スケジューラ サービスのみに使用] チェック ボックスをオンにします。



- [次へ] をクリックします。  
[スケジューラ サービスの設定] 画面が表示されます。

## スケジューラ サービスの設定

次のスケジューラ サービス設定を定義します。

- [サービス アカウント] グループで、次のいずれかのオプションを選択します。
  - ネットワーク サービス

- このアカウント: ログイン ID とパスワードを入力し、確認のためにパスワードを再度入力します。Windows 認証を使用してデータベースにアクセスする場合は、これらのデータベースにアクセス可能なアカウントを指定します。
2. [Insight 認証方法] で、スケジューラがデータ サービスにアクセスする際に使用する認証情報を指定します。次のいずれかのオプションを使用します。
- Insight ユーザー: Insight ユーザーのログイン ID とパスワードを入力し、確認のためにパスワードを再度入力します。
  - Windows 認証
3. [次へ] をクリックして、設定の詳細を確認します。確認後に、[次へ] をクリックします。設定の内容を変更するには、[前へ] をクリックして前のページに戻ります。
- インストールの進行中に、インストールされたコンポーネントのリストが表示されます。
4. Insight 6.4.0 のインストールが完了したことを通知するメッセージが表示された後に、[次へ] をクリックします。[Admin Console] を選択して、製品ライセンスをアクティブ化します。または、次のオプションのいずれかを選択することもできます。
- [設定の管理] を使用して、Insight の IIS の設定または Insight の管理データベースを更新します。
  - [Admin Console] を使用して製品ライセンスをアクティブ化し、プロジェクト、ユーザー、 роль、および権限を構成します。
  - [Kofax Analytics プロジェクトを設定] して、Kofax Analytics のインストール ウィザードを開始します。詳細については、『Insight Admin Console のヘルプ』を参照してください。
  - [終了] を使用して通知メッセージをクリアし、デスクトップに戻ります。

● 次のセクションに進む前に、Insight 6.4.0 で使用可能な修正パックを確認し、適用することをお勧めします。

## 製品ライセンスのアクティブ化

製品の購入時に Insight ライセンス ファイルが提供されていることを確認し、Admin Console を使用してアクティブ化します。以前のリリースからアップグレードする場合、新しいライセンスは必要ありません。

- 製品のライセンス ファイルを、Insight インストールからアクセス可能な場所にコピーします。
  - Insight 6.4.0 プログラムフォルダで、[Administration] > [Admin Console] を選択します。
  - Admin Console のログイン認証情報を入力します。
  - ドキュメントツリーで、[ライセンス マネージャ] を選択します。
  - 右側のパネルで、[新しいデータの追加] をクリックします。
  - ライセンス ファイルに移動して選択し、[開く] をクリックします。
- ライセンスがライセンス マネージャ リストに追加され、ライセンスで提供されるコンポーネントが [コンポーネント] セクションに表示されます。
- ドキュメントツリーが更新されます。

## インストール後の Insight の構成の変更

このセクションの手順を使用して、インストール後に Insight 構成を変更します。たとえば、認証情報を管理データベースに変更する、あるいは TLS/SSL モードを有効にするといった変更を行います。

1. コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
2. 次のように入力して、Insight がインストールされているフォルダに移動します。

```
cd C:\Program Files\Kofax\Insight 6.X.X
```

3. インストール フォルダから、次のように入力します。
4. 次のコマンドを実行します。

```
Altosoft.Insight.InstallManager.exe /i
```

Installation Manager が起動します。

5. [Insight Installation Manager の実行](#)に記載されている手順に従って、設定を更新します。

## インストール後の暗号化キーの変更

Insight データベース (Administration データベースおよびプロジェクト メタ データベース) が使用可能であることを確認し、このセクションの手順を使用して、生成されたキーをインストール後に変更します。

1. Insight Installation Manager の [セキュリティ] グループで、[キーの変更] をクリックします。
2. [確認] 画面で、[新しいキーを生成] ラジオ ボタンを選択します。デフォルトでは、生成されたキーは [ドライブ] :\ProgramData\Altosoft.Insight.Licenses に配置されます。  
また、[既存のキーを使用] ラジオ ボタンを選択し、[ファイルを開く] をクリックしてパスを指定することもできます。
3. オプションです。[データ フォルダに保存] チェック ボックスを選択して、キーを複製し、データ フォルダに保存します。
4. [OK] をクリックして変更を保存します。

## サイレント インストールの実行

標準の Insight インストール プロセスの代わりに、コマンドプロンプト ウィンドウからサイレント インストールを実行して製品のインストールを完了することができます。サイレント インストール中は、手動での入力を行う必要はありません。

1. コマンドプロンプト ウィンドウを開き、Insight 製品ファイルを抽出したフォルダに移動します。

## 2. 次のコマンドを実行します。

```
msiexec /i KofaxInsightSetup_6.4.0.NNNN_x64.msi /q
```

NNNN は、『Kofax Insight リリースノート』の「バージョン情報」セクションに記載されているビルド番号です。

**注意** /q と入力することで、Insight インストーラをサイレントモード(ユーザーインターフェイスなし)で実行します。

## 3. データ フォルダを指定するには、引数 DATAFOLDER=" [フォルダ]" をコマンドに追加します。

例:

```
msiexec /i KofaxInsightSetup_6.4.0.0.0.NNNN_x64.msi /quiet DATAFOLDER="D:\Temp"
```

"D:\Temp" はデータ ファイルが保存されるフォルダです。

ログ フォルダを指定するには、引数 LOGFOLDER=" [フォルダ]" をコマンドに追加します。

例:

```
msiexec /i KofaxInsightSetup_6.4.0.0.0.NNNN_x64.msi /quiet LOGFOLDER="D:\Temp"
```

"D:\Temp" はログ ファイルが保存されるフォルダです。

または、Insight をインストールするときにデフォルト以外の場所を使用することもできます。

例:

```
msiexec /i KofaxInsightSetup_6.4.0.0.0.NNNN_x64.msi /q DATAFOLDER="D:\temp\insightdata"
```

```
INSTALLLOCATION="D:\Program Files\Kofax\Insight 6.4.0\"
```

## 4. インストール用の Insight コンポーネントを定義するには、次の引数を使用します。

a. インストール タイプ パラメータを次のように設定します: INSTALLATION\_TYPE="Custom"

b. インストールするコンポーネントを定義します。

- INSTALLATION\_TYPE\_I: Web アプリケーション
- INSTALLATION\_TYPE\_S: Scheduler
- INSTALLATION\_TYPE\_W: WcfDataService

コンポーネントをインストールするには、値を 1 に設定します。それ以外の場合は、値を 0 に設定します。

たとえば、Web アプリケーションとスケジューラをインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
msiexec /i KofaxInsightSetup_6.4.0.NNNN_x64.msi /q
INSTALLATION_TYPE="Custom" INSTALLATION_TYPE_I="1" INSTALLATION_TYPE_S="1"
INSTALLATION_TYPE_W="0"
```

**注意** WcfDataService をインストールすると、Web アプリケーションの値が 0 に設定されている場合でも Web アプリケーションがインストールされます。この例外によって、レポートを PDF で印刷する手段が提供されます。

## 5. 構成の設定用の [InstallManagerSettings.xml] という名前のファイルを作成します。

- a. サイレントインストールのサンプル構成ファイル の例を確認します。必要に応じて、次のコマンドを構成ファイルに追加します。

- <Security UseCustomKey="True" GenerateNewKey="True"></Security>: 新しく生成された暗号化キーを適用します。
- <Security UseCustomKey="True" KeyPath="c:\temp\CSEncrypt.key" SaveToDataFolder="true"/>: 既存のカスタムキーを適用し、データをデータ フォルダに保存します。
- <HighAvailability>True</HighAvailability>: 高可用性モードを有効にします。
- <MultiTenant>True</MultiTenant>: Insight をマルチテナント モードでインストールします。

- b. データベース タイプ (SQL Server、Oracle、または MySQL) に対応するサンプルに基づいてファイルを作成し、必要に応じてユーザー名、パスワード、およびその他の値を更新します。

## 6. 構成ファイルを次のような別のフォルダに保存します。

C:\Insight

- サイレント モードでは、インストーラは InstallManagerSettings.xml の設定を使用しますが、通常のインストールの場合は Installation Manager のユーザー インターフェイスで入力した構成設定を取得します。

## 7. 次のコマンドを実行します。

```
<installation folder>/InstallationManager/
Altosoft.Insight.InstallManager.exe /i /a /f "<ConfigurationFilePath>"
```

## サイレントインストールのサンプル構成ファイル

このセクションでは、サイレントインストール用の独自の構成ファイル (InstallManagerSettings.xml) を作成するための開始点として使用するサンプル構成ファイルを示します。必要に応じて、ユーザー名、パスワード、およびその他の値を更新します。

### Microsoft SQL Server

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<InstallSettings>
  <InstallDirectory>C:\Program Files\Kofax\Insight 6.4.0</InstallDirectory>
  <HighAvailability>True</HighAvailability>
  <DBSettings>
    <ConnectionType>MSSQL</ConnectionType>
    <AuthDBName>AuthDBName</AuthDBName>
    <ServerName IsSQLAuthorisation="True"></ServerName>
    <User>User</User>
    <Password>Password</Password>
    <AdditionalConnectionString>AdditionalConnectionString</AdditionalConnectionString>
  </DBSettings>
  <WebDirContext CreateAppPool="True" CreateWebSite="False" Port="80" Host="hostname" UseSSL="False" EnableWindowsAuthentication="True">
    <ApplicationPoolName>InsightPool</ApplicationPoolName>
    <AppPool NetworkService="True" Identity=".\\administrator" Password="password"/>
    <WebSiteName>Default Web Site</WebSiteName>
  </WebDirContext>
  <Security UseCustomKey="True" KeyPath="c:\temp\CSEncrypt.key" SaveToDataFolder="True"/>
  <Projects UpdateAll="False">
```

```
</Projects>
  <AuthSettings Login="Administrator" Password="password">
  </AuthSettings>
  <InsightLocale>en-us</InsightLocale>
  <ViewerLocale></ViewerLocale>
  <SchedulerSettings LogOnAsNetworkService="True" LogOnAsAccount=".\\UserName"
LogOnAsPassword="password"
    UseWindowsAuthentication="False" UserName="Administrator" Password="password">
  </SchedulerSettings>
  <!-- Uncomment RemoteInsightDataserviceSettings for remote application service-->
  <!--<RemoteInsightDataserviceSettings Host="Host" Port="Port" UseSSL="False"
UseOnlyForScheduler="False|True">
  </RemoteInsightDataserviceSettings>-->
</InstallSettings>
```

### SSL 接続のある Microsoft SQL Server

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<InstallSettings>
  <InstallDirectory>C:\Program Files\Kofax\Insight 6.4.0</InstallDirectory>
  <HighAvailability>True</HighAvailability>
  <DBSettings>
    <ConnectionType>MSSQL</ConnectionType>
    <AuthDBName>AuthDBName</AuthDBName>
    <ServerName>IsSQLAuthorisation="True"></ServerName>
    <User>User</User>
    <Password>Password</Password>
    <AdditionalConnectionString>AdditionalConnectionString</AdditionalConnectionString>
  </DBSettings>
  <WebDirContext Port="443" Host="hostname" CreateWebSite="True"
CreateAppPool="False" UseSSL="True">
    <AppPool NetworkService="True" Identity=".\\administrator" Password="password"/>
    <ApplicationPoolName>ASP.NET v4.0</ApplicationPoolName>
    <WebSiteName>Default Web Site</WebSiteName>
    <Certificate Thumbprint="{certificate thumbprint}" Name="IIS Development
Certificate"/>
  </WebDirContext>
  <AppPool NetworkService="True" Identity=".\\administrator" Password="password"/>
  <Security UseCustomKey="True" KeyPath="c:\\temp\\CSEncrypt.key"
SaveToDataFolder="True"/>
  <Projects UpdateAll="False">
  </Projects>
    <AuthSettings Login="Administrator" Password="password">
  </AuthSettings>
    <InsightLocale>en-us</InsightLocale>
    <ViewerLocale></ViewerLocale>
    <SchedulerSettings LogOnAsNetworkService="True" LogOnAsAccount=".\\UserName"
LogOnAsPassword="password"
      UseWindowsAuthentication="False" UserName="Administrator" Password="password">
  </SchedulerSettings>
  <!-- Uncomment RemoteInsightDataserviceSettings for remote application service-->
  <!--<RemoteInsightDataserviceSettings Host="Host" Port="Port" UseSSL="False"
UseOnlyForScheduler="False|True">
  </RemoteInsightDataserviceSettings>-->
</InstallSettings>
```

### Windows 認証を使用する Microsoft SQL Server

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<InstallSettings>
  <InstallDirectory>C:\Program Files\Kofax\Insight 6.4.0</InstallDirectory>
  <HighAvailability>True</HighAvailability>
  <DBSettings>
    <ConnectionType>MSSQL</ConnectionType>
```

```
<AuthDBName>InsightDB</AuthDBName>
<ServerName IsSQLAuthorisation="False">localhost</ServerName>
<AdditionalConnectionString>AdditionalConnectionString</AdditionalConnectionString>
</DBSettings>
<WebDirContext CreateAppPool="True" CreateWebSite="False" Port="80" Host="hostname"
UseSSL="False">
<AppPool NetworkService="True" Identity=".\\administrator" Password="password"/>
<ApplicationPoolName>ASP.NET v4.0</ApplicationPoolName>
<WebSiteName>Default Web Site</WebSiteName>
</WebDirContext>
<Security UseCustomKey="True" KeyPath="c:\\temp\\CSEncrypt.key"
SaveToDataFolder="True"/>
<Projects UpdateAll="False">
</Projects>
<AuthSettings Login="Administrator" Password="password">
</AuthSettings>
<InsightLocale>en-us</InsightLocale>
<ViewerLocale></ViewerLocale>
<SchedulerSettings LogOnAsNetworkService="True" LogOnAsAccount=".\\UserName"
LogOnAsPassword="password"
UseWindowsAuthentication="False" UserName="Administrator" Password="password">
</SchedulerSettings>
<!--Uncomment RemoteInsightDataserviceSettings for remote application service-->
<!--<RemoteInsightDataserviceSettings Host="Host" Port="Port" UseSSL="False"
UseOnlyForScheduler="False|True">
</RemoteInsightDataserviceSettings>-->
</InstallSettings>
```

## Oracle

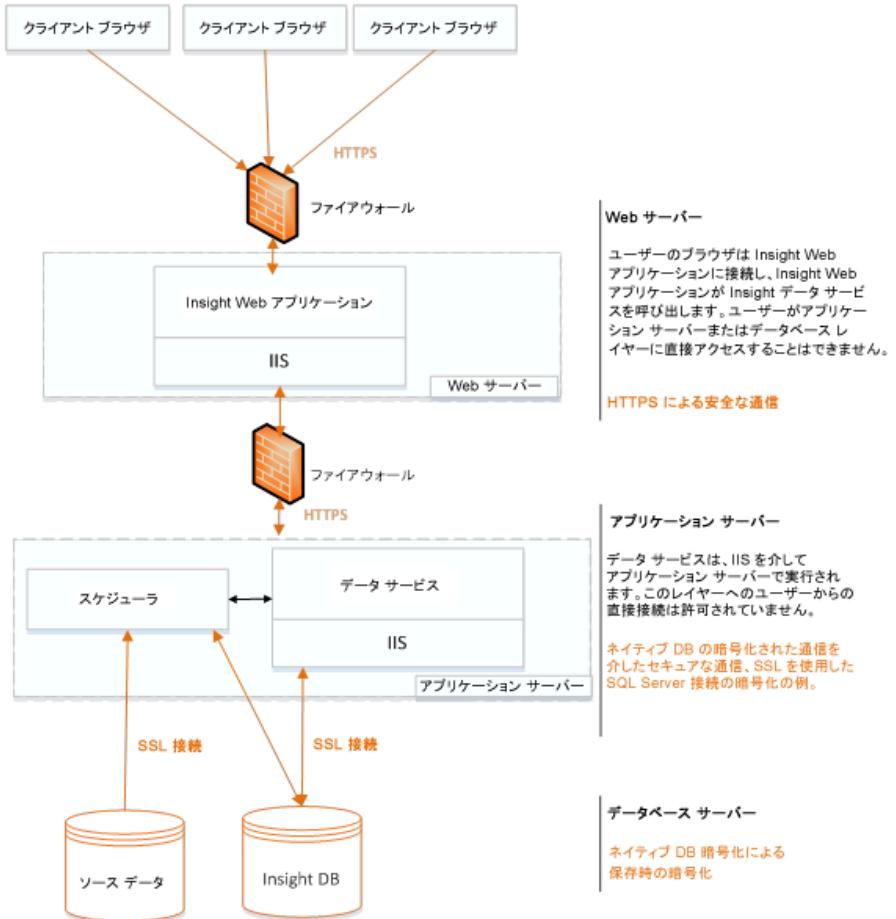
```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<InstallSettings>
<InstallDirectory>C:\\Program Files\\Kofax\\Insight 6.4.0</InstallDirectory>
<HighAvailability>True</HighAvailability>
<DBSettings>
<ConnectionType>Oracle</ConnectionType>
<AuthTNS>AuthTNS</AuthTNS>
<AuthUser>AuthUser</AuthUser>
<AuthPassword>AuthPassword</AuthPassword>
<AdditionalConnectionString>AdditionalConnectionString</AdditionalConnectionString>
</DBSettings>
<WebDirContext CreateAppPool="True" CreateWebSite="False" Port="80" Host="hostname"
UseSSL="False">
<AppPool NetworkService="True" Identity=".\\administrator" Password="password"/>
<ApplicationPoolName>InsightPool</ApplicationPoolName>
<WebSiteName>Default Web Site</WebSiteName>
</WebDirContext>
<Security UseCustomKey="True" KeyPath="c:\\temp\\CSEncrypt.key"
SaveToDataFolder="True"/>
<Projects UpdateAll="False">
</Projects>
<AuthSettings Login="Administrator" Password="password">
</AuthSettings>
<InsightLocale>en-us</InsightLocale>
<ViewerLocale></ViewerLocale>
<SchedulerSettings LogOnAsNetworkService="True" LogOnAsAccount=".\\UserName"
LogOnAsPassword="password"
UseWindowsAuthentication="False" UserName="Administrator" Password="password">
</SchedulerSettings>
<!--Uncomment RemoteInsightDataserviceSettings for remote application service-->
<!--<RemoteInsightDataserviceSettings Host="Host" Port="Port" UseSSL="False"
UseOnlyForScheduler="False|True">
</RemoteInsightDataserviceSettings>-->
</InstallSettings>
```

## MySQL Server

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<InstallSettings>
<InstallDirectory>C:\Program Files\Kofax\Insight 6.4.0</InstallDirectory>
<HighAvailability>True</HighAvailability>
<DBSettings>
  <ConnectionType>MySQL</ConnectionType>
  <AuthDBName>Insight_DB</AuthDBName>
  <ServerName>Insight_Server</ServerName>
  <User>sa</User>
  <Password>sa</Password>
  <AdditionalConnectionString>AdditionalConnectionString</AdditionalConnectionString>
</DBSettings>
<WebDirContext CreateAppPool="True" CreateWebSite="False" Port="80" Host="hostname" UseSSL="False">
  <AppPool NetworkService="True" Identity=".\\administrator" Password="password"/>
  <ApplicationPoolName>ASP.NET v4.0</ApplicationPoolName>
  <WebSiteName>Default Web Site</WebSiteName>
</WebDirContext>
<Security UseCustomKey="True" KeyPath="c:\\temp\\CSEncrypt.key" SaveToDataFolder="True"/>
<Projects UpdateAll="False">
</Projects>
<AuthSettings Login="Administrator" Password="password">
</AuthSettings>
  <InsightLocale>en-us</InsightLocale>
  <ViewerLocale></ViewerLocale>
  <SchedulerSettings LogOnAsNetworkService="True" LogOnAsAccount=".\\UserName" LogOnAsPassword="password" UseWindowsAuthentication="False" UserName="Administrator" Password="password">
  </SchedulerSettings>
  <!-- Uncomment RemoteInsightDataserviceSettings for remote application service-->
  <!--<RemoteInsightDataserviceSettings Host="Host" Port="Port" UseSSL="False" UseOnlyForScheduler="False|True">
  </RemoteInsightDataserviceSettings>-->
</InstallSettings>
```

## Insight 3 層アーキテクチャのセットアップ<sup>®</sup>

Insight は 3 層アーキテクチャでセットアップすることができます。この場合、Web アプリケーションは Web サーバー レイヤーにインストールされ、Insight データ サービスおよび Insight スケジューラ サービスはアプリケーション サーバー レイヤーにインストールされます。このアプローチは、ワークロードのバランスがとれた安全な配信を必要とする大規模なデプロイメント (銀行、金融、医療など) で役立つ場合があります。



詳細については、Insight のドキュメント フォルダにある『技術アーキテクチャと高可用性の設定の手順』を参照してください。

## Web サーバー層

1. Web サーバーで Insight インストーラを実行し、次の例外を除いて [Kofax Insight のインストール](#) の手順に従います。[Kofax Insight の設定] 画面が表示された後に、[カスタム] を選択して [次へ] をクリックします。  
コンポーネント選択画面が表示されます。
2. [Insight Web アプリケーション] を選択し、[次へ] をクリックします。
3. インストール フォルダを参照し、[次へ] をクリックします。  
インストールを開始するように求めるメッセージが表示されます。
4. [インストール] をクリックします。  
インストーラによって、選択したフォルダにファイルがコピーされ、プロセスが完了すると完了メッセージが表示されます。
5. [終了] をクリックしてインストーラを閉じ、Insight Installation Manager を起動します。
6. IIS サーバーに関する必要な情報を Web サーバー レイヤーに入力します。

7. [リモートの Insight データ サービスの使用] チェック ボックスをオンにし、アプリケーション サーバー レイヤーのホストと TCP ポートを入力して、[次へ] をクリックします。  
これらの設定は、Web サーバーがアプリケーション サーバーにアクセスできるようにするために必要です。



8. IIS 設定を確認し、[次へ] をクリックします。  
Insight Web アプリケーション コンポーネントがインストールされます。
9. Insight 6.4.0 のインストールが完了したことを通知するメッセージが表示された後に [次へ] をクリックしてから、[終了] をクリックします。アプリケーション サーバーにデータ サービスとスケジューラをインストールします。

## アプリケーション サーバー層

1. Web サーバーで Insight インストーラを実行し、次の例外を除いて [Kofax Insight のインストール](#) の手順に従います。[Kofax Insight の設定] 画面が表示された後に、[カスタム] を選択して [次へ] をクリックします。  
コンポーネント選択画面が表示されます。
2. [Insight データ サービス] および [Insight スケジューラ サービス] を選択し、[次へ] をクリックします。
3. インストーラがファイルをコピーするフォルダを選択し、[次へ] をクリックします。
4. [インストール] をクリックします。  
インストーラによって、選択したフォルダにファイルがコピーされ、プロセスが完了すると完了 メッセージが表示されます。

5. [終了] をクリックしてインストーラを閉じ、Insight Installation Manager を起動します。
6. データベース接続情報を入力します。
7. Insight データ サービスの IIS 情報を入力します。
8. Insight の管理者のログイン認証情報を入力し、必要に応じて [Windows 認証] チェック ボックスを選択します。
9. IIS 設定を確認し、[次へ] をクリックします。
10. スケジューラの設定を構成し、[次へ] をクリックします。  
Insight のアプリケーション サーバー コンポーネントがインストールされます。
11. Insight 6.4.0 のインストールが完了したことを通知するメッセージが表示された後に [次へ] をクリックしてから、[終了] をクリックします。  
3 層インストールが完了します。

## Insight のアップグレード

Insight を再インストールまたはアップグレードすると、既存の構成ファイルが上書きされる可能性があります。したがって、これらの手順を実行する前には、カスタム設定を含む構成ファイルをバックアップするようにしてください。Insight のアップグレードが完了した後に、必要なカスタマイズを新しい構成ファイルに手動で再適用する必要があります。

以前のバージョンから Insight 6.4.0 にアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

1. [Insight バージョンと管理データベースをアップグレードする](#)
2. [既存の Insight プロジェクトをアップグレードする](#)

アップグレード プロセスを開始する前に、Insight [管理データベース](#) および [プロジェクト](#) データベースをバックアップしておくことを強くお勧めします。

❶ Insight 6.4.0 に直接アップグレードする場合は、バージョン 6.0 以降が必要です。6.0 以前のバージョンからアップグレードするには、まずバージョン 6.3.0 にアップグレードし、次に 6.4.0 にアップグレードする必要があります。

## Insight バージョンと管理データベースのアップグレード

このセクションでは、Insight のバージョンと管理データベースをアップグレードする方法について説明します。

1. 既存の Insight 6.X インストールを適切な場所に保持します。
2. Insight 6.4.0 のインストーラを実行し、[Kofax Insight のインストール](#) に記載されている手順を実行します。  
次の 1 つの例外を除いて、インストーラのシーケンスは同様です。使用許諾契約に同意すると、既存のバージョンをアップグレードするか、Insight を個別のインストールとしてインストールするよう求められます。
3. [アップグレード バージョン][5.X]、または [アップグレード バージョン][6.X] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. インストールを終了し、Installation Manager を起動します。

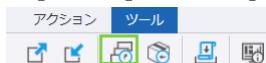
5. [Insight Installation Manager の実行](#)に記載されている手順を実行し、次のことを確認してください。
  - a. **[Insight Engine データベース設定]** で、既存の Insight 管理データベースの接続と認証情報を指定します。
  - b. **[データベース]** で、既存の Insight 管理データベースの名前を指定します。
  - c. 構成設定を入力します。**[Insight データ サービスの設定]** で、Insight 管理者パスワードを指定する必要があります (以前のバージョンと同じパスワードを使用する場合でも必要となります)。
  - d. インストールを完了します。  
管理データベースが Insight 6.4.0 に必要な形式にアップグレードされます。アップグレードが完了すると、既存の Insight プロジェクトが Admin Console および Studio で利用可能になります。プロジェクトをアップグレードするには、次のセクションを参照してください。
  - e. Insight 6.4.0 用の最新の修正パックを確認し、利用可能な場合は適用します。

## 既存のプロジェクトのアップグレード

Admin Console を使用して、以前のバージョンの Insight で作成されたプロジェクトをアップグレードします。既存のすべてのプロジェクトを同時にアップグレードすることや、プロジェクトを個別にアップグレードすることができます。

① 別のオプションとして、Studio で既存のプロジェクトをアップグレードできます。以前のバージョンの Insight で作成されたプロジェクトを選択すると、Studio では現在のバージョンで使用するためにプロジェクトを変換するように要求するメッセージが自動的に表示されます。

1. **[Admin Console]** を起動して、認証情報を入力します。
2. ツールバーの **[ツール]** タブで、**[すべてのプロジェクトをアップグレード]** をクリックします。



- [更新するプロジェクトを選択]** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. リストから、新しいバージョンの Insight で使用するために更新するプロジェクトを選択します。上部のチェック ボックスをオンにしてすべてのプロジェクトを選択するか、個々のチェック ボックスをオンにして、**[OK]** をクリックします。  
プロジェクトがアップグレードされます。
  4. **[閉じる]** をクリックします。

## 以前のバージョンと共に存した Insight 6.4.0 のインストール

Insight 6.4.0 は以前のバージョンと共に存した状態でインストールすることができます。この方法は、以前のバージョンを削除する前に、両方のバージョンを一定期間並行して使用する場合に役立ちます。

Kofax Insight のインストールと Installation Manager の実行の指示に従って Insight 6.4.0 インストールを実行しますが、このセクションに記載されているような一部の例外があります。

1. インストールを開始する前に:

- a. IIS マネージャを使用して新しい Web サイトを作成します(これは、Insight 6.4.0 Installation Manager を実行する際に選択できます)。新しいポートを選択します。または、この手順をスキップして、Installation Manager から Web サイトを作成することもできます。
- b. 現在のバージョンの Insight を使用して、既存のプロジェクトと管理設定をエクスポートします。

① また、データベースのクローンを作成し、既存のクローンを新しいバージョンの Insight で使用することもできます。この場合、データベースは自動的に新しいバージョンに更新されます。ただし、この場合は管理データベースで各プロジェクトを開き、既存のプロジェクトを更新せずに [変更] をクリックして、コピーしたプロジェクトデータベースに認証情報を入力する必要があります。

2. Insight 6.4.0 インストーラを実行する場合は、ライセンス契約の後に表示される画面で [個別にインストール] を選択します。
3. Installation Manager を実行しますが、新しいバージョンの Insight には新しい管理データベースを使用します。
4. Insight 6.4.0 Admin Console を起動し、新しいプロジェクトを作成してから、以前のバージョンの Insight からエクスポートしたプロジェクトと管理設定をインポートします。

## Docker への Kofax Insight のインストール

このセクションでは、Docker に Kofax Insight をインストールする手順について説明します。

1. 製品をインストールするコンピュータに Kofax Insight 製品ファイルをダウンロードします。
2. **KofaxInsight-6.4.0\_64-bit.ZIP** を抽出します。
3. [DockerFolder] フォルダを作成し、**KofaxInsight-6.4.0\_Docker.zip** を抽出します。  
抽出した **KofaxInsight-6.4.0\_Docker.zip** には、次のファイルが含まれています。
  - **Copy\_fonts.ps1** ファイル。
  - **[InstallConfig.xml]** ファイルおよび **Install\_fonts.ps** ファイルが含まれた **[Insight]** フォルダ。  
抽出した **KofaxInsight-6.4.0\_64-bit.ZIP** から **.msi** インストーラをコピーします。
  - 構成ファイル: **[InsightWeb.Dockerfile]**、**[Docker-compose.yml]**、**[Scheduler.Dockerfile]**。  
それぞれの構成ファイルには、必要に応じて拡張可能な設定が含まれています。
4. Windows 2019 の場合、PowerShell を起動し **Copy\_fonts.ps1** ファイルを実行します。
5. Docker for Windows の最新バージョンをインストールして、Windows コンテナーとして実行します。
6. 編集用に **[InsightWeb.Dockerfile]** および **[Scheduler.Dockerfile]** を開き、**[KofaxInsightSetup\_6.4.0.0.0.[NNNN]\_x64.msi]** などの適切な **.msi** ファイルに完全な名前を

定義します ([NNNN] は、『Kofax Insight リリース ノート 6.4.0』の「バージョン情報」セクションに記載されている Insight のビルト番号です)。

修正パックをインストールするには、[Insight] フォルダに .msp ファイルをコピーしてから、[InsightWeb.Dockerfile] および [Scheduler.Dockerfile] を開いて編集し、次の行のコメントを削除します。

```
#RUN Start-Process msiexec.exe -ArgumentList '/update', 'C:\Insight\KofaxInsightSetup_FixPack.msp', '/qn' -NoNewWindow -Wait (X は修正パック番号、YYYY はビルト番号を表します)。
```

Windows 2016 を使用する場合は、InsightWeb.Dockerfile で RUN C:\Insight\install\_fonts.ps1 を以下のようにコメントしてください: #RUN C:\Insight\install\_fonts.ps1

7. オプションです。Docker での Insight の使用は、Microsoft SQL Server でのみサポートされています。新しいデータベースを使用するには、新しい Administration データベースを作成する必要があります。

8. [Docker-compose.yml] ファイルを開いて編集し、データベースとユーザー設定を定義します。

- シングルテナント環境の場合:

a. DataService\_Insight.Admin.MasterDBConnectionString の接続を次の形式で定義します:

```
Data Source=<datasource>; Initial Catalog=<DBName>;  
Password=<userpassword>; User Id=<username>
```

b. 新しい Administration データベースの場合は、DataService\_Insight.Password 設定で管理者パスワードを定義します。

c. Scheduler\_Password 設定でスケジューラの管理者パスワードを指定します。

① 新しいデータベースを作成した場合、スケジューラの管理者パスワードはデータサービスに対して上の手順で定義したものと同一となります。

- マルチテナント環境の場合:

a. DataService\_Insight.TenantAdmin.MasterDBConnectionString の接続を次の形式で定義します:

```
Data Source=<datasource>; Initial Catalog=<DBName>;  
Password=<userpassword>; User Id=<username>
```

b. 新しい Administration データベースの場合は、DataService\_Insight.Password 設定で MTAdmin ユーザーのパスワードを定義します。

c. スケジューラ ユーザーのログインを MTAdmin ( Scheduler\_Login=MTAdmin) に変更します。

d. Scheduler\_Password 設定でスケジューラの MTAdmin パスワードを指定します。

① 新しいデータベースを作成した場合、スケジューラの MTAdmin パスワードはデータサービスに対して上の手順で定義したものと同一となります。

9. 管理者ユーザーとして [PowerShell] を起動し、次のコマンドを使用して [DockerFolder] に移動します。

```
cd <DockerFolder>
```

10. Docker で Insight 画像を作成するには、次のコマンドを実行します。

```
docker-compose build
```

基本的な Windows イメージを初めてダウンロードする場合は、最大 2 時間かかることがあります。

11. コンテナを起動するには、次のコマンドを実行します。

```
docker-compose up
```

12. 2 つのコンテナが起動した後に、次の URL を使用してブラウザで Insight を起動します。

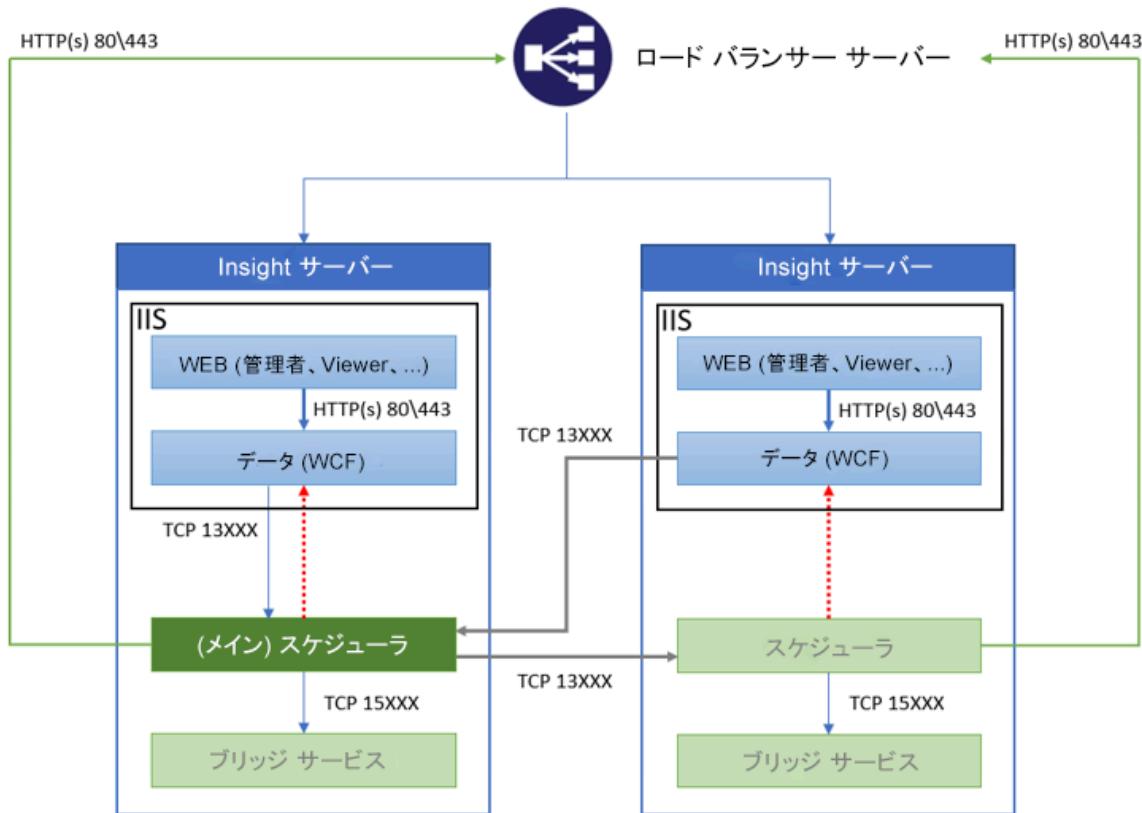
`http://servername:8080/insight/admin`

**● [Docker-compose.yml]** ファイルで任意の代替ポートを指定します。

## 高可用性モードでの Insight のセットアップ<sup>°</sup>

このセクションでは、[ロード バランサー](#)で複数の Insight 環境を実行して Insight ダッシュボードを高可用性にする方法について説明します。

次の図では、Insight 環境は、Web アプリケーション、データ サービス、およびスケジューラを備えた 2 つの Insight サーバーで構成されています。すべてのスケジューラのデータ サービス URL はロード バランサーのエントリ ポイントに設定され、Web アプリケーションのデータ サービス URL はローカルのデータサービスを使用するように設定されます。



各サーバーの Web アプリケーションには、データ サービスへの接続が必要です。ロード バランサーとの接続を使用するか、ローカル サーバー(同じサーバー上)に接続できます。Web アプリケーションとデータ サービスが同じサーバーにインストールされている 2 層アーキテクチャの場合、クライアントからのトラフィックはクライアントとデータ サービス間のプロキシとして機能する Web アプリケーションへの要求に応じて分散されるため、ローカルのデータ サービスを使用することをお勧めします。また、各データ サービスには、データ サービスの同期に必要な別のサービスへの接続が必要です。

また、スケジューラ サービスがデータ サービスにアクセスできる必要があります。同じサーバー上のローカルデータ サービス(赤い矢印)に接続する代わりに、ロード バランサーをスケジューラからデータ サービス(緑の矢印)へのエントリ ポイントとして使用することをお勧めします。この構成では、ローカル サーバーの IIS サービスに障害が発生しても、スケジューラは Windows サービスであるため、スケジューラを引き続き使用できます。この場合、ロード バランサーはスケジューラからの要求を別の使用可能なデータ サービスにリダイレクトし、スケジューラからの要求の処理を続行します。このオプションにより、スケジューラの高可用性を実現できます。

スケジューラは、データ サービスと同じ Insight サーバーにインストールすることや、別のマシンにインストールすることができます。

Insight サーバーが高可用性モードで実行されるように設定すると、Insight は 1 つのスケジューラを「メイン」のスケジューラとして割り当てます。メインスケジューラはプランとタスクを実行し、TCP 接続を使用して他のスケジューラにタスクを割り当てます。また、手動データのロード、テスト、スケジュール プランなどのさまざまなタスクを実行できるようにするには、すべてのデータサー

ビス (WCF) からメイン スケジューラが利用できる必要があります。メイン スケジューラに障害が発生すると、別のスケジューラがその役割を果たし、メイン スケジューラになります。障害が発生したスケジューラがオンラインに戻った場合、メイン スケジューラから受け取ったタスクの実行を開始します。

- スケジューラを実行しているすべての Insight サーバーは、同じデータベース ドライバおよびタイム ゾーン設定を使用する必要があります。また、システム時刻を同期する必要があります。

構成の完了後に、パフォーマンスを向上させるために、Admin Console の [停止] アイコンをクリックしてビュー モードを設定します。表示モードでは、Admin Console やプロジェクトを更新することはできませんが、Viewer アプリケーションは通常どおり機能します。Admin Console または Studio でプロジェクトを更新するには、Admin Console で [再生] アイコンをクリックして Insight を [編集] モードに設定します。システムが [編集] モードの場合、Viewer のパフォーマンスが低下します。

## 2 層アーキテクチャの高可用性モードでの Insight のインストール

このセクションでは、すべての Insight コンポーネント (Web アプリケーション、データ サービス、およびスケジューラ) が各 Insight サーバーにインストールされている場合に、2 層アーキテクチャの高可用性モードで Insight をインストールおよびセットアップする方法の例を示します。

大まかな手順は次のとおりです。

1. ロード バランサーのエントリ ポイント サーバーを指定します。
2. サーバーに Insight をセットアップし、ロード バランサーをエントリ ポイント サーバーとして構成します。
3. 他の Insight サーバーについても手順 2 を繰り返します (高可用性を確保するためには、少なくとも 2 台の Insight サーバーが存在している必要があります)。

前提条件:

- サーバー: この例では、3 つの Windows サーバーが使用されています。1 台のサーバーがロード バランサーのエントリ ポイントとなり、他の 2 台は Insight サーバーとなります。
- Windows Server 2012 以降を実行するすべてのコンピュータまたは仮想マシンにアクセスするには、管理者権限が必要です。

以下の手順に従って、各サーバーに Insight をインストールします。また、各サーバーでサイレント インストールを実行することもできます。

1. 製品をインストールするコンピュータに Kofax Insight 製品ファイルをダウンロードします。
2. **KofaxInsight-6.4.0\_64-bit.ZIP** を抽出します。
3. **KofaxInsightSetup\_6.4.0.0.0.[NNNN]\_x64.msi** などの適切な .msi ファイルを実行します ([NNNN] は、『Kofax Insight 6.4.0 リリース ノート』の「バージョン情報」セクションに記載されている Insight のビルド番号です)。  
インストール ウィザードが表示されます。
4. [次へ] をクリックします。
5. 管理者としてインストーラを実行していない場合は、通知 ウィンドウが表示されます。この場合は、[再起動] をクリックして管理者として実行します。
6. 使用許諾契約を確認し、条件に同意する場合はチェック ボックスを選択して、[次へ] をクリックします。
7. [Kofax Insight の設定] 画面で [すべての環境] を選択し、[次へ] をクリックします。

8. [カスタム設定] ページで、デフォルトのインストール フォルダを使用するか、フォルダを変更します。
  9. フォルダを指定するか、ログ ファイルを保存する場所を参照して選択します。初期状態では、すべてのユーザーにログ フォルダへのアクセス許可が付与されています。ローカル フォルダを使用してパフォーマンスの向上を図り、さまざまなサーバーからのログを分割することをお勧めします。また、共有フォルダを使用することもできますが、この場合も、各 Insight サーバーに個別のサブ フォルダを作成してログを分割することをお勧めします。
  10. [データ ルート フォルダ] をセットアップします。[データ ルート フォルダ] として共有ドライブを使用することをお勧めします。この設定により、ファイルとプロジェクトを Insight にアップロードするために使用する [データ ルート フォルダ] に Insight のすべてのインスタンスからアクセスできるようになります。Insight プール ユーザーとスケジューラ ログイン ユーザーには、このフォルダに対する読み取り/書き込み権限が必要です。
- Insight を介してアップロードするすべてのファイルにこの [データ ルート フォルダ] が使用されます。初期状態では、全員にこのフォルダへのアクセス権が割り当てられています。このフォルダには、次のサブカテゴリを含めることができます。
- Solution: ソリューションをインポートしてプロジェクトを作成するためのすべての ZIP ファイルが保存されます。
  - ImportExport: 抽出されたすべてのプロジェクトおよびソリューション ファイルが格納されます。
  - [プロジェクト名]: プロジェクトのデータが保存されるデフォルトのサブフォルダ。必要に応じて、それぞれのプロジェクトに個別のサブフォルダを作成できます。
  - Encryption key: セキュリティのために使用する暗号化キーを保存できます。
11. [次へ] をクリックします。
  12. [Kofax Insight をインストールする準備ができました] ページで、[インストール] をクリックしてインストールを開始します。
  13. [Kofax Insight セットアップ ウィザードの完了] ページで、[終了] をクリックします。

Insight Installation Manager が表示されます。手順については、「Installation Manager での Insight の設定」セクションを参照してください。

**●** インストールが正常に完了すると、すべてのインストール手順が、「カスタム設定」ページで前に指定したログ フォルダ内のファイルに記録されます。インストールが失敗した場合は、[Event Viewer] でそれぞれのログを確認できます。

## Installation Manager での Insight の構成

通常は、Insight インストーラを実行してファイルをサーバーにコピーした後に Insight Installation Manager が自動的に起動します。また、Insight Installation Manager プログラム フォルダから Insight を起動することもできます。

**●** 最初の構成が正常に完了した後で Installation Manager を実行した際には、Insight 管理者ユーザーの認証情報を入力する必要があります。あるいは、Windows 認証を使用することもできます。インストール後に Insight Installation Manager を実行して構成の設定を修復する場合、または IIS の設定を変更する必要がある場合は、コマンド プロンプトを起動して次のコマンドを実行します。

```
[ドライブ:]\\Insight_6.X.X\\InstallationManager
\\Altosoft.Insight.InstallManager.exe /i
```

## 一般設定

Insight Installation Manager を起動すると、情報を保存するための Admin Console の Administration データベースを設定するように求められます。

次の情報を指定します。

1. Insight モードで [シングル] または [マルチテナント] を選択します。

① Insight をマルチテナント モードでデプロイすると選択した場合は、ライセンスを追加し、Multi-Tenant Console アプリケーションを使用してテナントを構成する必要があります。マルチテナント管理者としてログインするには、*MTAdmin* というユーザー名を使用してパスワードを入力します。

2. [高可用性] チェック ボックスをオンにして、高可用性モードを有効にします。

3. 接続種類: 使用するサーバー (Microsoft SQL、Oracle、または MySQL)。

4. **SQL Server** 名: データベース サーバーのサーバー名または TNS 名を入力します。

MySQL または Oracle を使用する場合は、Insight をインストールする前に必要なデータベース ドライバがインストールされていることを確認してください。

Microsoft SQL Server の場合は、[Windows 認証] を使用できます。

① データベース接続は、すべてのサーバーで同じである必要があります。

5. [ログイン] および [パスワード]: Administration データベースのログイン認証情報を入力します。

Oracle データベースの場合、権限を持つユーザーをインストール前に作成する必要があります。Microsoft SQL および MySQL データベースについては、新しいデータベースが存在しない場合、Insight によって自動的に作成されます (ユーザーがデータベースを作成するために必要な権限を持つ場合)。別のオプションとして、インストール前に Administration データベースを作成することができます。

6. [Administration データベース名] を選択して名前を割り当てます。

7. [追加の接続文字列] を使用して、接続文字列に追加のパラメータを定義します。

8. セキュリティのために Insight の接続を暗号化するには、[カスタム キーを使用] チェック ボックスをオンにします。次の2つのオプションを使用できます。

- 新しいキーを生成: 選択した場合、キーが生成され、Insight ライセンスのローカル フォルダに保存されます。キーをデータ フォルダにも保存する場合は、それぞれのチェック ボックスをオンにします。
- 既存のキーを使用: 既存の暗号化キーへのパスを指定する場合にこのオプションを選択し、[ファイルを開く] をクリックします。この場合、キーは Insight のライセンスが付いた状態でローカル フォルダにコピーされます。

各サーバーで同じキーが使用されていることを確認してください。キー ファイルがすでに存在する場合はファイルを共有フォルダにコピーし、[既存のキーを使用] オプションを選択して、共有フォルダへのパスを指定します。キー ファイルがない場合は、最初のインストール時に [新しいキーを

生成] および [データ フォルダに保存] を選択します。次のインストール時には [既存のキーを使用] を選択し、共有データ フォルダへのパスを指定します。

● サイレント インストールの場合、[既存のキーを使用] を選択して、共有データ フォルダへのパスを指定します。このとき、ファイルが存在しない場合は新しいファイルが生成されます。キーを変更した場合は、変更後にすべてのノードですべての Insight サービス (Web アプリケーション/IIS およびスケジューラ) を再起動する必要があります。

9. [データ フォルダに保存] チェック ボックスをオンにして、キーをデータ フォルダに保存します。キーを変更する場合、コンピュータごとにキーを変更する必要はありません。

次の接続は暗号化されています。

- Administration データベースへの接続
- Admin Console からの接続ドキュメント
- プロジェクト メタ データベースおよびデータ データベースへの接続
- データベースへのデータ ソース ドキュメントで使用される接続

重要: データ フォルダに生成されたファイルが失われた場合、これらのすべての接続を利用できなくなります。

生成されたキーは、後で [Insight Installation Manager](#) を実行するか、[サイレント インストール](#) を実行して変更することができます。

10. [ローカリゼーション] グループで、ドロップダウン リストを使用して [Insight のロケール] および [Viewer のロケール] を設定します。デフォルトでは、ロケールに英語が選択されています。
11. [次へ] をクリックします。  
[Insight Web アプリケーション IIS の設定] ページが表示されます。

## Insight Web アプリケーション IIS の設定

次の Web アプリケーション設定を定義します。

1. [ホスト] パラメータと [TCP ポート] パラメータ、およびすべての URL に使用されるプロトコルを設定します。
  - [ホスト]: デフォルトのホスト アドレスは **127.0.0.1** です。Insight がインストールされているサーバーのドメイン名または IP アドレスを入力して、Web サイトにアクセスします。
  - **TCP ポート**: SSL (HTTPS) を使用する場合のデフォルトの TCP/IP ポートは 443 で、デフォルトの非セキュア (HTTP) ポートは 80 です。
  - **TLS/SSL を使用**: 暗号化された接続を有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。
2. [アプリケーション プール] グループで、次のように [アプリケーション プール名] を定義します。作成した IIS プール名を選択するか、新しいプール名を入力します。
3. オプションです。[ID の設定] をクリックして、アプリケーション プール ID を定義します。
  - a. [サービス アカウント] グループで、[アプリケーション プール ID] をクリックします。表示されたダイアログ ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
    - ネットワーク サービス
    - このアカウント: アカウント名またはドメイン\ユーザー名を入力します。Windows 認証を使用してデータベースにアクセスする場合は、このデータベースにアクセス可能なアカウントを指定します。
  - b. パスワードを設定して確認のために再度入力します。
  - c. [OK] をクリックして変更を保存し、画面を閉じます。

4. **Web サイト名:** IIS Web サイトをすでに作成している場合は、リストからサイトを選択し、入力した TCP ポートがこのサイトに割り当てられていることを確認します。作成していない場合は、入力した TCP ポートが使用可能であることを確認し、[新規] をクリックして新しい Web サイトを作成します。
  - a. [Web サイトの追加] ダイアログ ボックスで、[サイト名] を入力します。
  - b. [バインディング] グループで、[タイプ]、[ポート]、および [ホスト名] を設定します。

① SSL 接続を使用することを強くお勧めします。Installation Manager を続行する前に、IIS マネージャを使用して SSL 証明書を作成またはインポートします。IIS で SSL を設定する方法については、「Microsoft サポート Web サイト」を参照してください。

[Https] バインディング タイプを使用する場合は、リストから [SSL 証明書] を選択します。変更を保存すると、[TLS/SSL を使用] チェック ボックスが自動的に選択されます。インストールの完了後に SSL 設定を変更するには、[インストール後の Insight の構成の変更](#)の手順を参照してください。

- c. [OK] をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

## Insight データ サービスの設定

1. [データ サービスの Windows 認証を有効にする] チェック ボックスをオンにします。Insight コンポーネントに Windows 認証を使用する場合は、このオプションを有効にする必要があります。
2. [Insight データ サービスの設定] グループで、[パスワード ポリシーの適用] チェック ボックスをオンにして、管理者パスワードの次の要件を適用します。
  - 少なくとも 8 文字を含む
  - 少なくとも 1 つの英字を含む (a-z、A-Z)
  - 少なくとも 1 つの数字を含む (0-9)
  - 少なくとも 1 つの特殊文字を含む (例: @ & % \*)
3. 管理者またはマルチテナント管理者のパスワードを指定して、再度入力します。
4. [リモートの Insight データ サービスの使用] チェック ボックスをオンにし、ロード バランサーの [ホスト]、[TCP ポート] を設定して、[TLS/SSL を使用] オプションを有効にします。
5. リモート サービス設定をスケジューラ サービスにのみ適用するには、[スケジューラ サービスのみに使用] チェック ボックスをオンにします。この場合、Web アプリケーションはローカルのデータ サービスを使用し、スケジューラはロード バランサーを使用します。
6. [次へ] をクリックします。
 [スケジューラ サービスの設定] 画面が表示されます。

## スケジューラ サービスの設定

次のスケジューラ設定を定義します。

1. [サービス アカウント] グループで、次のいずれかのオプションを選択します。
  - ネットワーク サービス

- このアカウント: ログイン ID とパスワードを入力し、確認のためにパスワードを再度入力します。Windows 認証を使用してデータベースにアクセスする場合は、これらのデータベースにアクセス可能なアカウントを指定します。

① スケジューラは共有データ フォルダを使用するため、デフォルトのネットワーク サービスではなく、スケジューラの Windows アカウントを使用することをお勧めします。

- [Insight 認証方法] で、スケジューラがデータ サービスにアクセスする際に使用する認証情報を指定します。次のいずれかのオプションを使用します。
  - Insight ユーザー:** Insight ユーザーのログイン ID とパスワードを入力し、確認のためにパスワードを再度入力します。
  - Windows 認証**
- [次へ] をクリックして、設定の詳細を確認します。確認後に、[次へ] をクリックします。設定の内容を変更するには、[前へ] をクリックして前のページに戻ります。  
インストールの進行中に、インストールされたコンポーネントのリストが表示されます。
- Insight 6.4.0 のインストールが完了したことを通知するメッセージが表示されるので、[次へ] をクリックします。設定の内容を変更するには、[前へ] をクリックして前のページに戻ります。インストールの進行中に、インストールされたコンポーネントのリストが表示されます。
- Insight 6.4 のインストールが完了したことを通知するメッセージが表示された後に、[次へ] をクリックします。
- [Admin Console] を選択して、製品ライセンスをアクティブ化します。または、次のオプションのいずれかを選択することもできます。
  - [設定の管理] を使用して、Insight の IIS の設定または Insight の管理データベースを更新します。
  - [Admin Console] を使用して製品ライセンスをアクティブ化し、プロジェクト、ユーザー、ロール、および権限を構成します。
  - [Kofax Analytics プロジェクトを設定] して、Kofax Analytics のインストール ウィザードを開始します。詳細については、『Insight Admin Console のヘルプ』を参照してください。
  - [終了] を使用して通知メッセージをクリアし、デスクトップに戻ります。

① 次のセクションに進む前に、Insight 6.4.0 で使用可能な修正パックを確認し、適用することをお勧めします。

## 製品ライセンスのアクティブ化

製品の購入時に提供された Insight ライセンス ファイルがあることを確認し、次のいずれかのオプションを使用して保存します。

- ① 以前のリリースからアップグレードする場合、新しいライセンスは必要ありません。
- 共有フォルダを使用します。
    - 共有フォルダを使用するには、DataService\_Insight.LicenseFolder キーを各 Insight インスタンスの環境変数に追加し、共有フォルダ (共有データ フォルダなど) へのパスを定義します。

- WCFDataService.web.config ファイルで、次のようにパスを定義します。

```
<add key="Insight.LicenseFolder" value="Path_to_shared_folder"/>
```

① このフォルダは、すべての Insight サーバーで共有する必要があります。Insight プール ユーザーには、このフォルダへの読み取りアクセス権が必要です。

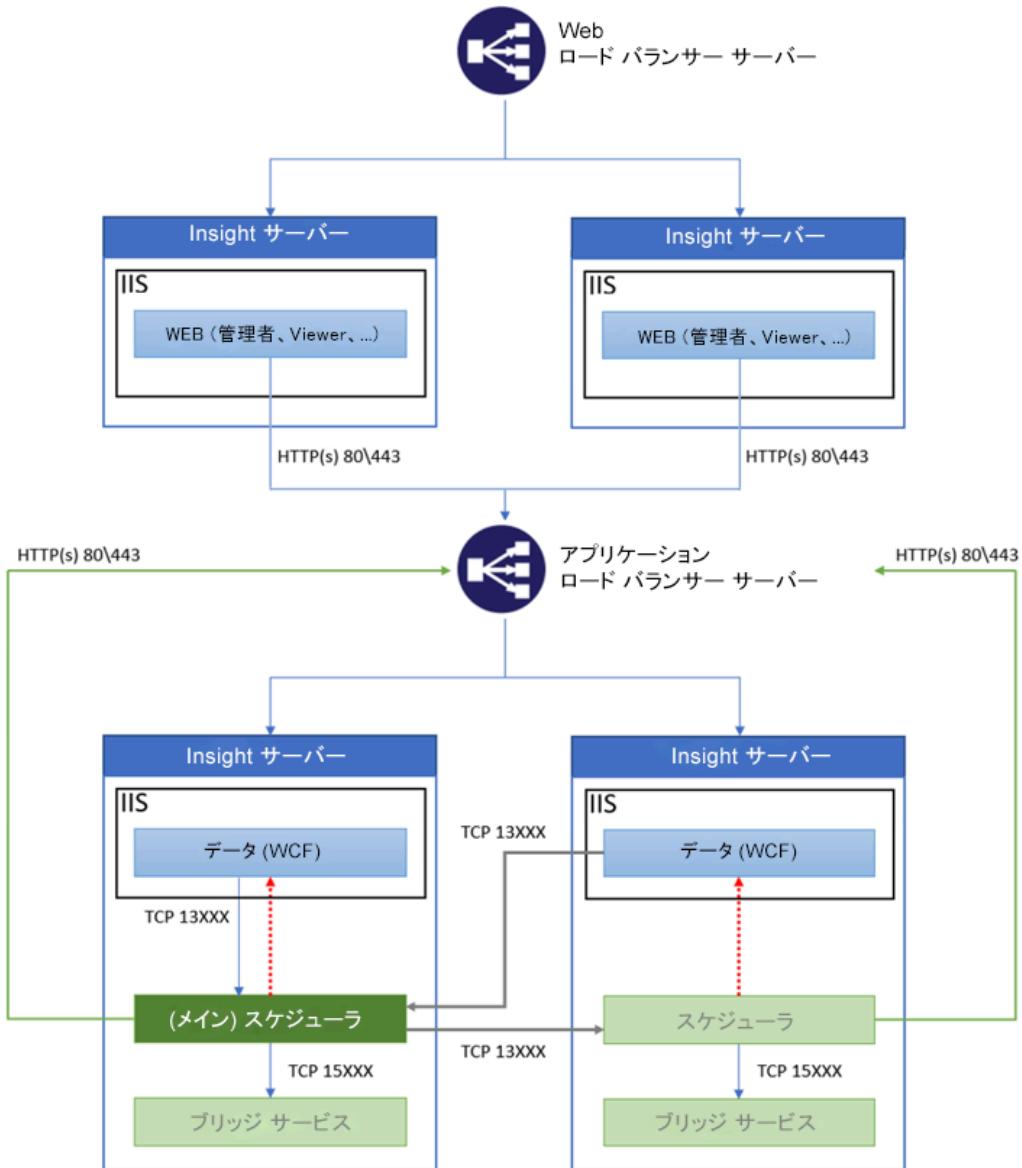
- ローカル フォルダを使用します。
  - ライセンスをプログラム データの「Altosoft.Insight.Licenses」フォルダにコピーします。
  - Insight サーバー上で(ロード バランサーを介さずに) Insight Admin Console を直接開き、ライセンスをアップロードします。このオプションは、Web アプリケーションがローカル データサービスを使用する場合にのみ使用できます。

以下の手順に従って、ライセンスをアクティビ化します。

- 製品のライセンス ファイルを、Insight インストールからアクセス可能な場所にコピーします。
- Insight 6.4 のプログラム フォルダで、[Administration] > [Admin Console] を選択します。
- Admin Console のログイン認証情報を入力します。
- ドキュメントツリーで、[ライセンス マネージャ] を選択します。
- 右側のパネルで、[新しいデータの追加] をクリックします。
- ライセンス ファイルに移動して選択し、[開く] をクリックします。ライセンスがライセンス マネージャ リストに追加され、ライセンスで提供されるコンポーネントが [コンポーネント] セクションに表示されます。ドキュメントツリーが更新されます。

### 3 層アーキテクチャの高可用性モードでの Insight のインストールと構成

次の図に、3 層アーキテクチャの高可用性モードでの Insight のインストールを示します。



[カスタム インストール] オプションを使用して、2 層アーキテクチャと同じ推奨事項に従って 3 層アーキテクチャで Insight サーバーをインストールおよび構成します。

すべてのサーバーについて、[リモートの Insight データ サービスの使用] オプションを選択し、アプリケーション ロード バランサー サーバーを指定します。

Web アプリケーションを備えた Insight サーバーの場合は、[スケジューラ サービスのみに使用] チェック ボックスをオフのままにします。この場合、Web アプリケーションはアプリケーション ロード バランサーをエントリ ポイントとして使用します。

## Azure Kubernetes での高可用性モードでの Insight のセットアップ

1. **オンプレミス** サーバー上に Insight Web および スケジューラ イメージを構築します。
2. Azure ポータルで **Azure Cloud Shell** を実行します。
3. **Azure Cloud Shell** に以下のファイルをアップロードします。これらのファイルは、Insight 製品 パッケージから入手できます。
  - kubernetes\azure-file-pvc.yaml
  - kubernetes\azure-file-sc.yaml
4. レジストリが存在しない場合は、次のコマンドを実行して新しいコンテナ レジストリを作成します。

```
RESOURCE_GROUP="Kofax"
CONTAINER_REGISTRY="insight-registry"
az acr create -n $CONTAINER_REGISTRY -g $RESOURCE_GROUP --sku Basic --admin-enabled true
az acr credential show -n $CONTAINER_REGISTRY
```

5. イメージを準備したコンピュータで、次のコマンドを実行して、イメージを Azure コンテナ レジストリにプッシュします。

```
docker login <CONTAINER_REGISTRY>.azurecr.io -u <CONTAINER_REGISTRY> --password <registry password>
docker tag insight-web <CONTAINER_REGISTRY>.azurecr.io/insight-web:v1
docker tag insight-scheduler <CONTAINER_REGISTRY>.azurecr.io/insight-scheduler:v1
docker push <CONTAINER_REGISTRY>.azurecr.io/insight-web:v1
docker push <CONTAINER_REGISTRY>.azurecr.io/insight-scheduler:v1
```

ここで <CONTAINER\_REGISTRY> は、前の手順のレジストリ名です。

Azure ポータル コンテナ レジストリからレジストリ パスワードをコピーして、<registry\_password> パラメータを選択し、[Azure] > [ストレージ] > [コンテナ レジストリ] > [アクセス キー] に移動します。

6. クラスタとノードを作成します。次の設定のプレースホルダーを置き換え、コマンドを **Azure Cloud Shell** にコピーして実行します。

```
USER_NAME="azureuser"
PASSWORD_WIN="userpassword"
RESOURCE_GROUP="Kofax"
CLUSTER_NAME="insight-cluster"
NODES_COUNT=1
CONTAINER_REGISTRY="insight-registry"
WIN_NODEPOOL_NAME="npwin"
```

```
#cluster
az aks create \
  --resource-group $RESOURCE_GROUP \
  --name $CLUSTER_NAME \
  --node-count 1 \
  --enable-addons monitoring \
  --generate-ssh-keys \
  --windows-admin-password $PASSWORD_WIN \
  --windows-admin-username $USER_NAME \
  --vm-set-type VirtualMachineScaleSets \
  --network-plugin azure

az aks nodepool add \
```

```
--resource-group $RESOURCE_GROUP \
--cluster-name $CLUSTER_NAME \
--os-type Windows \
--name $WIN_NODEPOOL_NAME \
--node-count $NODES_COUNT

az aks get-credentials --resource-group $RESOURCE_GROUP --name $CLUSTER_NAME
```

## #storage

```
kubectl apply -f azure-file-sc.yaml
kubectl apply -f azure-file-pvc.yaml
kubectl get pvc
```

## #Log in to the container registry

```
kubectl create secret docker-registry regcred \
--docker-server=$CONTAINER_REGISTRY.azurecr.io \
--docker-username=$CONTAINER_REGISTRY \
--docker-password=<registry password>
```

7. `kubernetes/insight-k8s-deployment.yml` ファイルのパスを、発行されている Insight イメージのパスに置き換えます。  
<INSIGHT WEB IMAGE URL> を <CONTAINER\_REGISTRY>.azurecr.io/Insight-web:v1 に置き換え、  
<SCHEDULER IMAGE URL> を <CONTAINER\_REGISTRY>.azurecr.io/Insight-scheduler:v1 に置き換える必要があります
8. データベースを定義します。

● データベースはすでに存在しています。

9. **Azure Cloud Shell** に `kubernetes/insight-k8s-deployment.yml` ファイルをアップロードします。
10. Azure Cloud Shell で次のコマンドを実行して、Insight を発行します。  
`kubectl apply -f insight-k8s-deployment.yml`
11. すべてのポッドが使用可能になるまで待ちます。次のコマンドを使用して、状態を確認します。  
`kubectl get pod`
12. Insight にログインします。  
次のコマンドを使用して、クラスタの外部 IP を取得します。  
`kubectl get services`  
外部 IP を取得し、Insight Admin Console にログインします。  
`http://externalIP/insight/admin`
13. オプションです。クラスタ オートスケーラを有効にします。

## #Node pools autoscaler

```
az aks nodepool update \
--enable-cluster-autoscaler \
--min-count 1 \
--max-count 5 \
--resource-group $RESOURCE_GROUP \
--name $WIN_NODEPOOL_NAME \
--cluster-name $CLUSTER_NAME
```

## #Pods autoscaler

```
kubectl autoscale deployment insight-web --cpu-percent=50 --min=1 --max=10
kubectl autoscale deployment insight-scheduler --cpu-percent=50 --min=1 --max=10
```

## #Getting autoscaler logs

```
kubectl get configmap -n kube-system cluster-autoscaler-status -o yaml
```

## Swarm オンプレミス環境を備えた Docker での高可用性モードでの Insight のセットアップ<sup>1</sup>

1. オンプレミス サーバー上に Insight Web および スケジューラ イメージを構築します。
2. Insight イメージを Azure コンテナ レジストリや DockerHub レジストリなどのコンテナ レジストリにプッシュします。

以下のコマンドを使用します。

```
docker login [docker_rep_url] -u [user] --password [password]
docker tag insight-web [docker_rep_url]/insight-web:v1
docker tag insight-scheduler [docker_rep_url]/insight-scheduler:v1
docker push [docker_rep_url]/insight-web:v1
docker push [docker_rep_url]/insight-scheduler:v1
```

3. SMB 共有フォルダを作成し、Insight を備えた Docker コンテナが実行されるすべてのノードの G:\ ドライブにマッピングします。

詳細については、Microsoft の [Web サイト](#) にあるドキュメントを参照してください。

4. Insight ライセンス ファイルを G:\ ドライブにコピーします。
5. すべてのノードに Docker エンジンをインストールします。
6. すべてのノードで Swarm と Docker に必要なポートを開きます。デフォルトでは、次のポートが使用可能である必要があります: 4789、2377、7946。詳細については、Docker の [Web サイト](#) にある Swarm チュートリアルを参照してください。

7. プライマリ ノードで Docker Swarm 環境を初期化します。

コマンドラインで次のコマンドを実行します。

```
docker swarm init --advertise-addr [master node IP]
```

8. 初期化が終了すると、コンソールは次の文字列を返します。文字列を他のノードにコピーし、コマンドを実行してノードをクラスタに参加させます。

```
docker swarm join --token [Token-id] [ip:port]
```

9. オーバーレイ ネットワークを作成するには、次のコマンドを実行します。

```
docker network create --driver=overlay --attachable core-infra
```

10. Swarm/docker-compose.yml ファイルのパス

<INSIGHT WEB IMAGE URL> を [docker\_rep\_url]/insight-web に置き換え、

<SCHEDULER IMAGE URL> を [docker\_rep\_url]/insight-scheduler に置き換える必要があります

11. データベースを定義します。

● データベースはすでに存在しています。

12. Swarm フォルダに移動して、レジストリにログインします。

```
docker login [docker_rep_url] -u [user] --password [password]
```

13. コマンドラインで次のコマンドを使用して、Docker Swarm 環境に Insight をデプロイします。

```
docker stack deploy --compose-file docker-compose.yml --with-registry-auth
insight
```

14. /:G ドライブのプロパティを開き、すべてのノードで [OK] をクリックします。[OK] をクリックしない場合、Insight をデプロイできません。

● ローカルホスト URL を介して Swarm 環境の Insight にアクセスすることはできません。Swarm 環境で Insight にアクセスするには、プライマリ ノードで IP アドレスとホスト名を定義します。

## 付録 A

# ロックアウトからの回復

管理者が Insight アプリケーション (Admin Console、Multi-Tenant Console、Viewer、Studio、Themes and Formats、または Data Loader) の Windows 認証を誤って構成してしまいログインできない場合、ロックアウトが発生する可能性があります。この手順を使用してロックアウトから回復し、認証設定を [なし] に設定します。

1. [ドライブ:] \Program Files\Kofax\Insight 6.x.x\HtmlInsight\Admin で **Web.config** を見つけます。

2. <appSettings> で PreventConfigChange キーが *True* であることを確認します。True でない場合は、以下を追加します。

```
<add key="PreventConfigChange" value="true"/>
```

3. 認証を次のように変更します。

```
<authorization>
  <allow users="*" />
</authorization>
```

4. 認証モードを *None* に変更します。

```
<authentication mode="None">
```

5. Viewer、Studio、Themes and Formats、Data Loader などの他の Insight アプリケーションについても同じ手順を繰り返します。

## Insight ユーザーとしてのアプリケーションへのログイン

1. [ドライブ:] \Program Files\Kofax\Insight 6.x.x\WcfDataService で **Web.config** ファイルを見つけます。
2. <add key="Insight.DataService.TryInsightUsers" が *True* であることを確認します。
3. 誤ったログイン設定が設定されているアプリケーションにアクセスします。アドレス行で、アドレスの最後に *Login.aspx* を追加します。
4. Insight ユーザーとしてアプリケーションにログインします。

## 付録 B

# 接続文字列の修復と新しい暗号化キーの適用

暗号化キーが使用できなくなった場合は、このセクションを参照してください。

- 管理 DB の認証情報を再入力するには、Installation Manager をインストール モードで実行します (\i キーを使用)。
- Admin 接続の認証情報を再入力するには、Admin Console を起動し、すべての接続を開いて認証情報を入力します。
- プロジェクトの認証情報を再入力するには、Admin Console で各プロジェクトを開き、認証情報を入力します。
- データ ソースの認証情報を再入力するには、プロジェクトを開いて、各データ ソースを開いて認証情報を入力します。

## 付録 C

# ファイル解析のための Excel 2016 の構成

(オプション) Insight サーバーに Excel 2016 がある場合、ファイル パーサーを使用してファイルを解析することができます。

1. 管理者としてサーバーにログインします。
2. [コントロール パネル] > [システムとセキュリティ] > [管理ツール] > [コンポーネント サービス] に移動します。
3. コンソール ルートで、[コンポーネント サービス] > [コンピューター] > [マイ コンピューター] > [DCOM の構成] に移動し、**Microsoft Excel Application** を見つけます。
4. **[Microsoft Excel Application]**を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[ID] タブで、次の手順を実行します。
  - a. [このユーザー] を選択します。
  - b. Excel ファイルにアクセスできるユーザーを指定します。
  - c. [ユーザー] フィールドおよび[パスワード] フィールドに入力します。
  - d. パスワードを確認してください。
5. [セキュリティ] タブの [起動とアクティブ化のアクセス許可] グループで、[カスタマイズ] チェック ボックスをオンにし、[編集] をクリックします。
6. [起動とアクティブ化のアクセス許可 - セキュリティ] タブで、次の手順を実行します。
  - a. [ネットワーク サービス] を選択します。
  - b. [ローカルからの起動] および [ローカルからのアクティブ化] の [許可] チェック ボックスをオンにします。
7. [アクセス許可 - セキュリティ] タブで、次の手順を実行します。
  - a. [カスタマイズ] チェック ボックスをオンにします。
  - b. [編集] をクリックします。
8. [セキュリティ] タブの [アクセス許可] グループで、[カスタマイズ] チェック ボックスをオンにし、[編集] をクリックします。  
[アクセス許可 - セキュリティ] タブで、次の手順を実行します。
  - a. [ネットワーク サービス] を選択します。
  - b. [ローカル アクセス] の [許可] チェック ボックスをオンにします。
- これで、Insight で Excel 2016 ファイルを処理できるようになります。
9. **Microsoft Excel Application** が [DCOM の構成] のリストに表示されない場合は、レジストリを編集する必要があります。
  - a. コマンド プロンプト ウィンドウを開き、**REGEDIT** を実行します。
  - b. [HKEY\_CLASSES\_ROOT] > [AppId] に移動し、[編集] をクリックして '{00020812-0000-0000-C000-00000000046}' を検索します。このフォルダが見つからない場合は、[AppID] > [新

規] > [キー] を右クリックし、フォルダに **Microsoft Excel Application** という名前を付けて、新しいフォルダを作成します。

- c. また、権限が次のように設定されていることを確認します。

CREATOR OWNER: 特殊なアクセス許可が選択されている。

SYSTEM: フル コントロールと読み取りが選択されている。

Administrators ([マシン名]\Administrators): フル コントロールと読み取りが選択されている。

Users ([マシン名]\Users): 読み取りが選択されている。

- d. 手順 2~3 を実行して、Excel 2016 処理用のファイルを構成します。

10. **[systemprofile\Desktop]** フォルダのアクセス許可を構成するには、次の手順を実行します。

- a. C:\Windows\SysWOW64\config\systemprofile\Desktop\ に移動し、**[Desktop]** フォルダが存在しない場合は作成します。

- b. **[systemprofile]** フォルダを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

- c. [セキュリティ] タブで、[起動したユーザー] (IIS アプリケーション プール アカウント) を選択し、[読み取り] および [書き込み] チェック ボックスをオンにして、アクセス許可を設定します。

- d. C:\Windows\System32\config\systemprofile\Desktop\ に移動し、**[Desktop]** フォルダが存在しない場合は作成して、手順 b と c を繰り返します。

## 付録 D

# ロード バランサーの設定と構成

このセクションでは、エントリ ポイント構成例を紹介します。推奨された手順を実行するか、任意のロード バランサーを自己の責任でエントリ ポイントとして使用することができます。例として、次の手順では、IIS マネージャを使用して負荷分散を構成します。以下の手順に従って、独自のエントリ ポイントを設定することをお勧めします。エントリ ポイントとして別のロード バランサーを使用する場合は、それぞれのドキュメントを参照してください。

1. [IIS マネージャ] で、[Get New Web Platform Components] を選択します。
2. ブラウザ ウィンドウで、[Microsoft Web Platform Installer Download] をダウンロードし、[アプリケーション要求ルーティング処理][Application Request Routing] を見つけてインストールします。
3. [IIS マネージャ] に新しいメニュー項目として [Server Farms] が追加されます。[Server Farms] を右クリックし、[Create Server Farm] を選択します。
4. フーム名を入力します。
5. [サーバーの追加][Add Server] 画面で、Insight を使用するコンピュータの IP アドレスを入力し、[終了] をクリックします。
6. [Rewrite Rules] 画面で、[はい] をクリックします。

## Web フームの設定

1. [Server Affinity] で [Client Affinity] を選択し、[適用] をクリックします。
2. [Load Balance] で、適切なロード バランス アルゴリズムを設定し、[適用] をクリックします。

## Insight 固有の Cookie

通常、セッションを設定するための追加の構成は必要ありませんが、次の Insight 固有の Cookie を考慮します。

[アプリケーション タイプ]\_\_Insight\_SessionId\_[フル バージョン]

[アプリケーション タイプ] は、以下のアプリケーションのいずれかになります。

- Admin Console 用の「Admin」
- Themes and Formats 用の「ThemeManager」
- Studio 用の「Studio」
- データ ロード マネージャー用の「Data Loader」

また、[フル バージョン] は、『Kofax Insight リリース ノート 6.4.0』の「バージョン情報」セクションに記載されている Insight のビルド番号です。

Viewer の場合、次の Cookie が使用されます。

Viewer\_[アプリケーション名]\_Insight\_SessionId\_[フル バージョン]

[アプリケーション名] は Viewer アプリケーションの名前で (カスタム ビューアを追加可能)、デフォルトのアプリケーション名は「View」となります。

また、[フル バージョン] は、『Kofax Insight リリース ノート 6.4.0』の「バージョン情報」セクションに記載されている Insight のビルド番号です。

## 付録 E

# Windows Active Directory 認証のサポート

Insight では、Active Directory 認証は、Installation Manager、スケジューラ サービス、インポートおよびエクスポート ユーティリティを含むすべての Insight コンポーネントで使用できます。Installation Manager およびインポート/エクスポート ユーティリティの場合は、管理アプリケーションのユーザー マッピングが使用されます。スケジューラの場合は、Data Loader アプリケーションのユーザー マッピングが使用されます。管理者ロールを持つユーザーのみが、Installation Manager、スケジューラ サービス、およびインポート/エクスポート アプリケーションにログインできます。

Active Directory 認証を有効にするには、Installation Manager で [データ サービスの Windows 認証を有効にする] を選択します。

LDAP パスは、WCF データ サービスの web.config で定義されています。LDAPS を使用するには、次の方法で LDAP パスを定義します。LDAP://ldap.domain.com:636

自己署名証明書を使用する場合は、ルート証明書を取得して、信頼されたルート証明書としてインストールします。Active Directory への接続に使用する完全修飾ドメイン名は、SSL 証明書と完全に一致している必要があります。

## IIS 環境の構成

1. IIS で Insight アプリケーションに対して Windows 認証が有効になっていることを確認します。
  - a. Insight がインストールされているサーバーで IIS マネージャを開き、Insight アプリケーションを選択します。
  - b. [認証] アイコンをクリックします。
  - c. [Windows 認証] が有効になっていることを確認します。
2. WCFDataService が配置されている IIS アプリケーション プール (既定では ASP.NET v.4.0) は、Insight 用に構成された Windows Active Directory に対して認証されたユーザーの下で実行するように変更する必要があります。
  - a. Insight がインストールされているサーバーで IIS マネージャを開きます
  - b. [接続] ウィンドウでサーバー ノードを展開し、[アプリケーション プール] をクリックします。
  - c. [アプリケーション プール] ページで、WCFDataService を含むアプリケーション プールを選択します。注: アプリケーション プール内のすべてのアプリケーションを表示するには、[アクション] パネルで [アプリケーションの表示] をクリックします。
  - d. [アクション] パネルで [詳細設定] をクリックします。
  - e. [プロセス モデル] で、ID を Windows Active Directory にアクセスできるアカウントに変更します。
  - f. アプリケーション プールを再起動します。

## Windows Active Directory 認証のトラブルシューティング

ログインに失敗した場合は、次の手順で問題のトラブルシューティングを行います。Viewer または Insight にログインして、HTTP セッションのパラメータと値について、Windows Active Directory からログ ファイルへの取得を試みます。

1. 認証およびユーザー マッピング設定が正しく構成されていることを確認します。

● たとえば、ビューアに Windows 認証を設定している場合は、認証とユーザー マッピングの設定でアプリケーションが「Viewer」として設定されていることを確認します。

2. 次のログ ファイルを確認します。C:\Temp\Insight\_6.x.x に移動します。
3. WcfDataService.log を開きます。
4. 「WcfDataService.Code.InsightService.LoginProvider.」を見つけます。
5. Active Directory プロパティ リストまでスクロールします。ユーザー ID のセッション パラメータとして *Identity* という語を使用する場合は、「Identity」というキーワードを検索し、適切な値が渡されることを確認します。また、*memberOf* を検索して、値が正しいことを確認します。
6. 返されるプロパティが指定されていることを確認します。また、リストがカンマ区切りである場合は、ロールの固定値マッピングで *Include* が指定されていることを確認します。

```
givenName: John distinguishedName: CN=John
Doe,OU=Users,OU=US05,OU=US,OU=Countries,DC=MyCompany,DC=com instanceType: 4
whenCreated: 5/7/2014 8:52:59 PM whenChanged: 1/25/2016 8:37:08 PM
displayName:
  John Doe otherTelephone: 2154446666 uSNCreated: System.__ComObject memberOf:
  MyCompany.MyDept, CRMReportingGroup, CRMReportingGroupDev, MyDeptarement_US,
  MyDept_Media, All_MyDept, Products_users, ProjectServer, ProjectManagers, VPN
  Users uSNChanged: System.__ComObject co: United States department: MyDept -
  Products company: MyCompany Inc. proxyAddresses: SMTP:John.Doe@MyCompany.com,
  smtp:hDoe@MyDept.com, SIP:John.Doe@MyCompany.com, smtp:John.Doe@MyDept.com
  countryCode: 840 employeeID: 5648 homeDirectory: \\us05401\users$\John.Doe
  homeDrive: U: badPasswordTime: System.__ComObject lastLogoff:
  System.__ComObject lastLogon: System.__ComObject pwdLastSet:
  System.__ComObject
  primaryGroupID: 513 objectSid: System.Byte[] accountExpires:
  System.__ComObject
  logonCount: 1368 sAMAccountName: John.Doe
```

## 付録 F

# Insight ログ ファイル

このセクションでは、インストール中に指定した次のフォルダにある Insight ログ ファイルで利用可能な情報の概要を説明します。

C:\Temp\Insight\_6.x.x (6.xx はバージョン番号)

ログを記録するには、C:\Temp へのフル アクセス (読み取り/書き込み) が必要です。

### **AlertDistribution**

アラートの生成/配信機能に関連する情報。

### **Altosoft.Insight.InstallManager**

Insight ソフトウェアのインストールおよび Insight Installation Manager に関するその他のアクティビティに関する情報。

### **BridgeService**

Insight ブリッジ サービスに関する情報 (64 ビット オペレーティング システム上の 32 ビット データ ソースとの通信に使用されます)。これは、Excel または 64 ビット コンピュータ上の 32 ビット ODBC ドライバで使用される場合があります。

### **ChartSnapshot**

チャート スナップショット (レポートの印刷) 機能に関する情報。

### **DataLoad**

Data Loader Web アプリケーションに関する情報。

### **DataProcessing**

実行時 (ビュー アプリケーション) および 設計時 (Studio アプリケーション) のダッシュボード表示用のデータを取得するための (データ データベース/データマートへの) ダッシュボード クエリに関する情報。

### **ImportExport**

スタンドアロンの Import/Export Tool のインポートおよびエクスポート アクティビティに関する情報。

### **InsightAdmin**

Admin Console Web アプリケーションに関する情報。

### **InsightInstallation**

Insight ソフトウェアのメイン MSI インストーラに関連する情報。

**InsightServer\_WinApp**

データのロードに関連する情報と実行の詳細 (実行プラン)。

**InsightStudio**

Studio Web アプリケーションに関連する情報。

**InsightThemes**

Themes and Formats Web アプリケーションに関連する情報。

**InsightViewer**

Viewer Web アプリケーションに関連する情報。

**ProcessManager**

プロセスのデータ ロードに関連する情報。

**ReportDistribution**

スケジュールされたレポートの生成/配信機能に関連する情報。

**Scheduler**

スケジュールされたタスク (実行プランで定義済み) を更新および起動するために使用される Insight スケジューラ サービスに関連する情報。

**UpdateTable**

通常は Studio プロジェクトの開発とインポート/エクスポート アクティビティによって発生するデータベースおよびテーブル スキーマの変更に関連する情報。

**WcfDataService**

WcfDataService Web サービスに関連する情報。すべての Insight Web アプリケーションのデータベース (管理、メタ、およびデータ) クエリとすべての Web アプリケーションのユーザー認証とログイン アクティビティが含まれます。